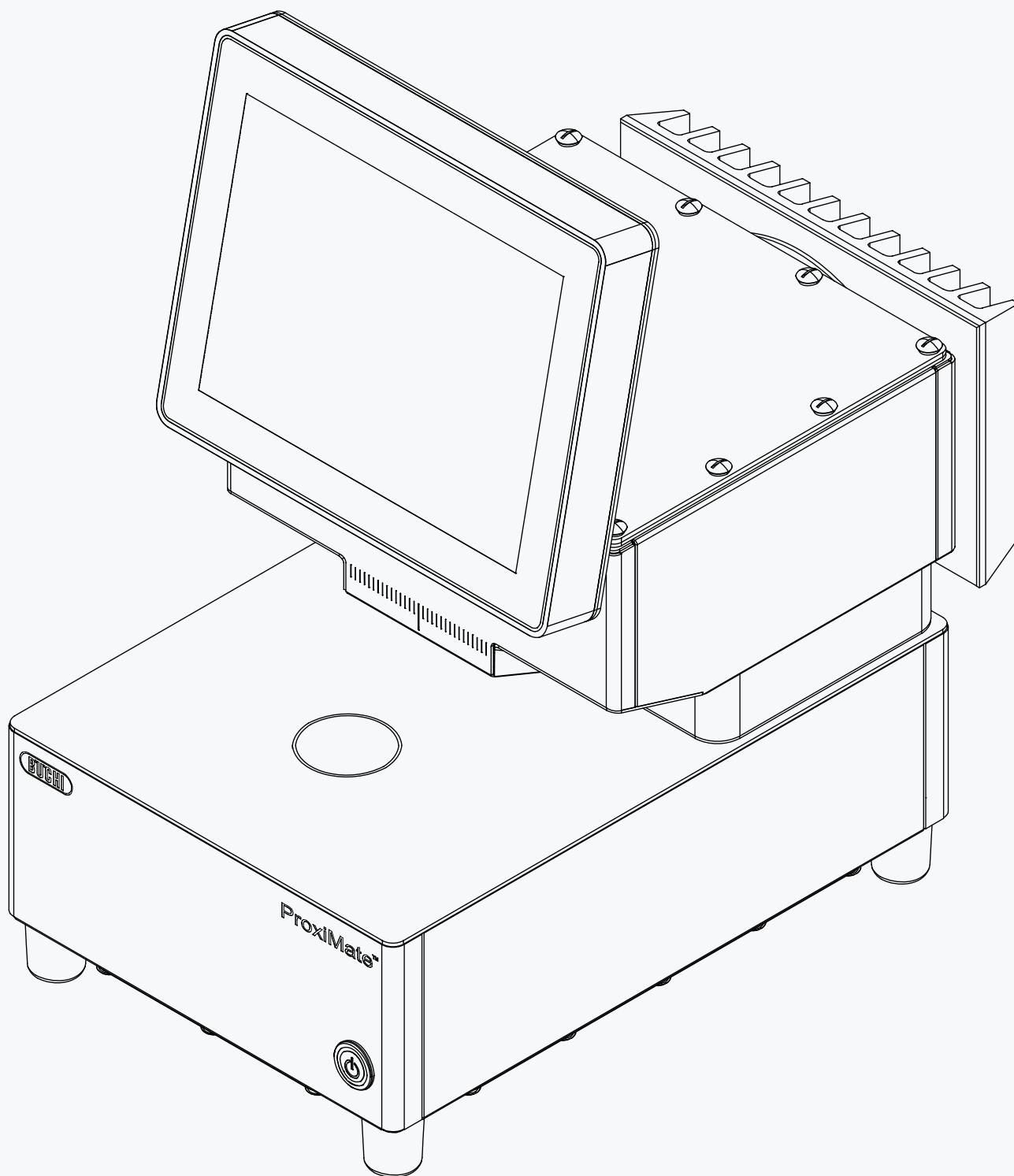




取扱説明書

近赤外分析計 ProxiMate™



発行者

製品情報：

取扱説明書（オリジナル）近赤外分析計 ProxiMate™
11593985

発行日：08.2026

バージョン K

BÜCHI Labortechnik AG

Meierseggstrasse 40

CH-9230 Flawil

電子メール：quality@buchi.com

BUCHI は、経験に基づいて必要と見なした場合に、本書の内容（特に構成、イラスト、技術的詳細）を変更する権利を有します。

本書は著作権で保護されています。本書の情報の複製、配布、競合目的の使用、第三者への提供を禁じます。また、事前の書面による同意なしに、本書を利用したいかなる部品の製造も禁じます。

目次

1	本書について.....	8
1.1	本書中の警告表示について	8
1.2	シンボル	8
1.2.1	警告シンボル.....	8
1.2.2	マークアップと記号.....	8
1.3	商標.....	9
2	安全性.....	10
2.1	適正使用	10
2.2	目的以外での使用	10
2.3	スタッフの資格.....	10
2.4	潜在的リスク.....	11
2.4.1	ガラスおよびアクリルの破損.....	11
2.4.2	操作中の故障.....	11
2.4.3	IPモジュールが正しく取り付けられていないことによる装置の破損	11
2.4.4	他のデバイスまたはネットワークとの接続によるマルウェア感染	11
2.4.5	データの損失.....	11
2.4.6	本機の不適切なシャットダウンによる内部メモリの破損	11
2.5	個人用保護具.....	11
2.6	変更内容	11
3	製品説明	12
3.1	機能の説明	12
3.2	測定オプション	12
3.2.1	下面照射オプション.....	12
3.2.2	上面照射オプション.....	12
3.3	測定モード	13
3.3.1	拡散反射モード	13
3.3.2	透過反射モード	13
3.4	構成.....	14
3.4.1	前面図	14
3.4.2	背面図	15
3.4.3	接続部（IPモジュールを取り外した状態）	16
3.4.4	銘板の位置.....	17
3.5	納入品目	17
3.6	銘板.....	17
3.7	仕様.....	18
3.7.1	近赤外分析計 ProxiMate™	18
3.7.2	設置環境.....	19
3.7.3	材質	19
4	運搬と保管	20
4.1	運搬.....	20
4.2	保管.....	20
4.3	本機の持ち上げ	20

5	設置	21
5.1	設置前	21
5.2	設置場所	21
5.3	地震に備えた固定	21
5.4	電気接続の確立	22
5.5	USBデバイスの取り付け	22
5.6	ソフトウェア設定	23
5.6.1	ソフトウェアまたはアプリケーションのライセンス申請	23
5.6.2	ライセンスのインポート	24
5.6.3	BCV検量を実行する権限の変更	25
5.6.4	ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正	25
5.6.5	リファレンスデータのインポート	28
5.6.6	ソフトウェアの言語の変更	29
5.6.7	順番フィールドと注記フィールドのラベルを変更	29
5.6.8	測定繰り返し回数の編集	30
5.6.9	測定ワークフローの変更	30
5.6.10	順番ボタンの設定を調整	30
5.6.11	履歴メニューの時刻および日付形式を調整	31
5.6.12	履歴メニューに表示されるサンプルの最大数を編集	31
5.6.13	CSV形式のオプションを変更	32
5.6.14	XML形式のオプションを変更	33
5.6.15	JCAMP形式のオプションを変更	34
5.6.16	ログエントリの削除サンプル数の調整	35
5.6.17	検量比較の基準の変更	35
5.6.18	自動バックアップの設定	36
5.6.19	QRコードリーダーの設定の調整	37

6	操作.....	39
6.1	コントロールパネルのレイアウト.....	39
6.2	機能バー.....	39
6.3	メニューバー.....	41
6.3.1	開始メニュー.....	42
6.3.2	履歴メニュー.....	46
6.3.3	アプリケーションメニュー.....	51
6.3.4	ツールメニュー.....	52
6.4	ステータスバー.....	53
6.5	管理者モードへのログイン.....	54
6.6	アプリケーションの編集.....	55
6.6.1	新しいアプリケーションの作成.....	55
6.6.2	アプリケーションの別名の変更.....	56
6.6.3	アプリケーションの照射モードの変更.....	57
6.6.4	アプリケーションの測定モードの変更.....	57
6.6.5	アプリケーションの測定オプションの変更.....	58
6.6.6	アプリケーションの説明の入力.....	59
6.6.7	アプリケーションの回転設定の変更.....	59
6.6.8	アプリケーションの測定時間の変更.....	60
6.6.9	アプリケーションの標準操作手順（SOP）の入力.....	60
6.6.10	アプリケーションの選択可否の変更.....	61
6.7	アプリケーションの削除.....	62
6.8	プロパティの編集.....	62
6.8.1	新しいプロパティの作成.....	63
6.8.2	プロパティの名前の変更.....	63
6.8.3	プロパティの別名の変更.....	64
6.8.4	プロパティの表示順の変更.....	64
6.8.5	プロパティの予測内容の変更.....	65
6.8.6	初期波長範囲の変更（検量線モデルのみ）.....	68
6.8.7	予測内容の変更（検量線モデルのみ）.....	68
6.8.8	検量線使用値の変更（検量線モデルのみ）.....	69
6.8.9	換算表示値の変更（検量線モデルのみ）.....	70
6.8.10	計算式の変更（計算項目値のみ）.....	71
6.8.11	標準観察者の変更（色のみ）.....	72
6.8.12	標準イルミナントの変更（色のみ）.....	72
6.8.13	表色系の変更（色のみ）.....	73
6.8.14	属性の変更（色のみ）.....	73
6.8.15	プロパティの小数位の変更.....	74
6.8.16	プロパティの単位の変更.....	74
6.8.17	プロパティのバイアスの変更.....	75
6.8.18	プロパティの傾きの変更.....	75
6.8.19	プロパティのマハラノビスの変更（検量線モデルのみ）.....	76
6.8.20	プロパティの目標値の変更.....	77
6.8.21	プロパティの最大上限の変更.....	77
6.8.22	プロパティの最小下限の変更.....	78
6.8.23	プロパティの最大許容値の変更.....	78
6.8.24	プロパティの最小許容値の変更.....	79

6.9	プロパティの削除	79
6.10	測定の実行	80
6.10.1	装置の準備	80
6.10.2	単一測定の開始	81
6.10.3	繰り返し測定の開始	81
6.10.4	測定の終了	82
6.10.5	測定結果の詳細とスペクトル	82
6.10.6	装置のシャットダウン	83
6.11	メタデータの編集（サンプルID、順番、注記）	83
6.12	参照値の入力	84
6.12.1	Excelテンプレートでの手分析値のインポート	85
6.13	検量線モデルを作成または更新するAutoCalの実行	86
6.13.1	検量線要約を開く統計情報の確認	87
6.14	インポートとエクスポート	88
6.14.1	測定データのエクスポート	88
6.14.2	アプリケーションデータのインポート	91
6.14.3	アプリケーションデータのエクスポート	91
6.15	レポートの作成	92
6.15.1	単一サンプルのレポート作成	92
6.15.2	同じアプリケーションの複数サンプルのレポート作成	93
6.15.3	同じアプリケーションのサンプルすべてのレポート作成	94
6.15.4	作成したデータファイルへのアクセス	95
7	クリーニングと保守作業	96
7.1	定期保守作業	96
7.2	ランプの交換	97
7.2.1	上面照射ランプの交換	97
7.2.2	下面照射ランプの交換	100
7.2.3	ランプ交換の確認	103
7.3	乾燥剤カートリッジの点検	104
7.4	乾燥剤カートリッジの交換	106
7.5	システム試験の実行	107
7.5.1	ベースライン補正ベクトル試験の実行	107
7.5.2	包括的なシステム試験の実行	108
7.5.3	高度なシステム試験の実行	108
7.6	データのバックアップの実行	108
7.7	データバックアップの復元	109
7.7.1	ツールメニューを使用	109
7.7.2	ショートカットを使用	109
7.8	データベースのクリーンアップ	110
7.8.1	パーセントで選択	110
7.8.2	期間で選択	110
7.9	ディスプレイの清掃	111
8	故障かな？と思ったら	112
8.1	トラブルシューティング	112
8.2	エラーメッセージ	112

9	使用中止と廃棄.....	114
9.1	使用中止	114
9.2	廃棄.....	114
9.3	装置の返却	114
10	付録.....	115
10.1	測定結果の詳細とスペクトル	115
10.2	ファイルの説明とフォルダの場所.....	116
10.3	計算式入力ルール	117
10.4	スペアパーツとアクセサリー	118
	10.4.1 アクセサリー	118
	10.4.2 スペアパーツ	120

1 本書について

本取扱説明書は、本装置のすべてのバリエーションに適用されます。
 操作を開始する前に本取扱説明書をよく読み、書かれている指示に従って安全性を確保してください。
 本取扱説明書は、後日の使用に備えて保管し、後続のユーザーまたは所有者に引き継いでください。
 本取扱説明書に従わなかったために発生した損害、故障、不具合については、BÜCHI Labortechnik AGは一切の責任を負いません。
 本取扱説明書に関してご不明な点がございましたら、
 ▶ BÜCHI Labortechnik AGカスタマーサービスまでお問い合わせください。

<https://www.buchi.com/contact>

1.1 本書中の警告表示について

警告表示は、装置を取り扱う際に発生し得る危険を警告するためのものです。危険度には4段階あり、シグナルワードを使用して識別されます。

シグナルワード	意味
危険	予防措置を講じない場合、死亡または重傷をもたらす可能性のある高レベルの危険が生じる内容を示します。
警告	予防措置を講じない場合、死亡または重傷をもたらす可能性のある中レベルの危険が生じる内容を示します。
注意	予防措置を講じない場合、軽傷または中程度の傷害をもたらす可能性のある低レベルの危険が生じる内容を示します。
通知	物的損害が発生する可能性のある危険性の存在を示します。

1.2 シンボル

この取扱説明書および本機には、以下のシンボルが表示されています。

1.2.1 警告シンボル

記号	意味
	一般的な注意事項
	壊れやすいもの
	高温表面
	感電
	装置の損傷

1.2.2 マークアップと記号



備考

この記号は、有用で重要な情報に注意を喚起します。

☑ この文字は、それに続く指示を実行する前に満たさなければならない条件に注意喚起します。

▶ この文字は、ユーザーが実行すべき指示を示します。

⇒ この文字は、正常に実行された命令の結果を示します。

マークアップ	説明
ウィンドウ	ソフトウェアウィンドウはこのようにマークアップされています。
タブ	タブはこのようにマークアップされています。
ダイアログ	ダイアログはこのようにマークアップされています。
[ボタン]	ボタンはこのようにマークアップされています。
[フィールド名]	フィールド名はこのようにマークアップされています。
[メニュー／メニュー項目]	メニューまたはメニュー項目はこのようにマークアップされています。
ステータス	ステータスはこのようにマークアップされています。
シグナル	シグナルはこのようにマークアップされています。

1.3 商標

本書中の製品名および登録・非登録商標は、それぞれ該当する所有者に帰属し、本書では識別目的にのみ使用します。

2 安全性

2.1 適正使用

本機は実験室および生産環境（アットライン）用として設計・製造されています。サンプルに含まれる特定の成分の分析に使用されます。

本機は以下のタスクに使用できます。

- 定量化可能な測定項目の測定

2.2 目的以外での使用

2.1章「適正使用」、10ページに記載されている以外の使用、および技術仕様（3.7章「仕様」、18ページを参照）に準拠しない用途は、使用目的以外の使用とみなされます。特に、以下の用途は許可されていません。

- 防爆機器を必要とする部屋での機器の使用。
- 衝撃、摩擦、熱、火花により爆発または発火する可能性のあるサンプル（爆発物など）の使用。
- 機器を操作する人にとって危険または有害なサンプルの使用。

製造元は、以下の原因による不正確な測定については一切責任を負いません。

- ソフトウェアまたはハードウェアの故障
- 誤った使用方法またはユーザーエラー
- 第三者による不正アクセス

このような誤用は保証または責任の対象外となります。

2.3 スタッフの資格

資格を持たないスタッフはリスクを特定できないため、より大きな危険に晒されます。本装置の操作は、適切な資格を有する検査室スタッフのみが行ってください。本書は、以下のグループを対象としています。

ユーザー

ユーザーとは、以下の条件を満たす人を指します。

- 装置の操作手順を習得している。
- 本書の内容および該当する安全法規を熟知し、適用できる。
- トレーニングまたは専門的な経験に基づいて、装置の使用に関連するリスクを評価できる。

オペレーター

オペレーター（一般的には検査室マネージャー）は、以下の項目について責任を負います。

- 本装置の設置、試運転、操作、保守が正しく実施されていること。
- 適切な資格を持つスタッフのみを本書に記載されている作業に割り当てること。
- スタッフが、安全性および危険予防に配慮した作業方法について現地の適用法令を遵守すること。
- 装置の使用中に安全性に関わるインシデントが発生した場合、製造元（quality@buchi.com）に報告すること。

BUCHIサービス技術者

BÜCHI Labortechnik AGは、特別なトレーニングコースを受講し、ビュッヒの認定を受けたサービス技術者のみに特別な保守点検・修理手順の実施を許可しています。

2.4 潜在的リスク

本装置は、最新の技術を用いて開発・製造された装置です。しかし誤った使い方をすると、人体、設備、環境に危害をもたらす危険性があります。

本取扱説明書には、そのような潜在的リスクについて適切な警告が記載されています。

2.4.1 ガラスおよびアクリルの破損

ガラスやアクリルの破片で重大な切り傷を負うことがあります。

ガラスやアクリルの破片が生産物に入り込むことがあります。

- ▶ ペトリ皿やその他のガラスおよびアクリル部品は慎重に扱い、落とさないようにしてください。
- ▶ ガラスおよびアクリル部品を使用するときには、毎回、損傷がないか目視検査してください。
- ▶ 損傷があるガラスおよびアクリル部品は、ただちに使用を中止してください。
- ▶ 破損したガラスおよびアクリルを処分するときには、必ず保護手袋を着用してください。

2.4.2 操作中の故障

装置が破損した場合、鋭利な端部やむき出しになった電線によって負傷することがあります。

- ▶ 目に見える破損がないか、定期的に装置を点検してください。
- ▶ 故障が発生した場合は、すぐに装置の電源を切って、オペレーターに通知してください。
- ▶ 損傷がある装置は、ただちに使用を中止してください。

2.4.3 IPモジュールが正しく取り付けられていないことによる装置の破損

IPモジュールが正しく取り付けられていないと、材料や水が本機に浸入することがあります。

- ▶ IPモジュールを開かないでください。
- ▶ 使用しないときには、USBソケットにカバーをしてください。

2.4.4 他のデバイスまたはネットワークとの接続によるマルウェア感染

他の装置やネットワークに接続すると、装置がマルウェアに感染する可能性があります。

- ▶ 他の装置やネットワークに接続する前に、ウイルス対策ソフトウェアおよびファイアウォールをインストールしてください。

2.4.5 データの損失

落雷や停電などによる電源障害が発生した場合、測定データが失われることがあります。

- ▶ 定期的にデータのバックアップを実行してください。

2.4.6 本機の不適切なシャットダウンによる内部メモリの破損

本装置を不適切にシャットダウンすると、内部メモリに損傷を引き起こす可能性があります。

- ▶ 本装置を記載どおりシャットダウンします。6章「操作」、39ページを参照してください。

2.5 個人用保護具

用途によっては、発熱性または腐食性を持つ化学物質による危険があります。

- ▶ 安全ゴーグル、保護服、手袋などの適切な個人用保護具を必ず着用してください。
- ▶ 個人用保護具が、使用するすべての化学物質の安全データシートに記載されている要件を満たすものであることを確認してください。

2.6 変更内容

許可されていない変更を行うと、安全性が損なわれ、事故につながる恐れがあります。

- ▶ 必ず純正のアクセサリ、スペアパーツ、および消耗品を使用してください。
- ▶ 技術的な変更を実施する場合は、事前にビュッヒから書面による許可を得てください。
- ▶ 変更は、ビュッヒサービス技術者のみが行うことができます。

ビュッヒは、許可されない変更が原因で生じた損傷、故障、および誤作動に対して、一切の責任を負いません。

3 製品説明

3.1 機能の説明

近赤外分析計 ProxiMate™はNIR分光計であり、食品および飼料サンプルのさまざまな成分の濃度を非破壊で測定できます。

近赤外分析計 ProxiMate™には、さまざまなバージョンがあります。指定されたバージョンに応じて、近赤外分析計 ProxiMate™はNIR分光計、またはNIRと可視光を組み合わせた分光計に構成できます。

本機は、測定サンプルに焦点を合わせたNIRと可視光のビームを生成します。サンプルからの反射光が収集され、回折格子によって各波長に分離されます。回折光はダイオードアレイ検出器に向けられます。検出器からの信号が処理されて、反射スペクトルになります。このスペクトルをさらに処理して、必要な成分を計算します。

データ処理

NIR光はサンプル物質とさまざまな相互作用をおこし、特徴的なフィンガープリントをスペクトルに残します。液体と固体の両方のスペクトルを近赤外分析計 ProxiMate™で測定できます。固体サンプルのスペクトルは直接収集されますが、液体サンプルの場合は、透過反射アダプターを使用する必要があります。

アプリケーション

アプリケーションは、特定のサンプルタイプの測定に関連するすべてのパラメータを定義します。

これには、以下が含まれます。

- 測定項目
- 使用する検量線モデル
- 標準操作手順

すべてのアプリケーションデータを含んでいるファイルをインポートまたはエクスポートして、同じアプリケーションを2台目の近赤外分析計 ProxiMate™で使用することができます（検量線モデルのライセンス要件によります）。

3.2 測定オプション

近赤外分析計 ProxiMate™の測定オプションの選択は、分析するサンプルのタイプと本機が使用される作業環境に応じて最適化されます。

近赤外分析計 ProxiMate™は、下面照射と上面照射設定のいずれかのサンプルプレゼンテーションオプションで設定できます。



備考

下面照射と上面照射オプションの利点を1台の装置で活用できます。

3.2.1 下面照射オプション

下面照射オプションでは、サンプルの下から光を当てて収集します。NIR光はガラスのペトリ皿の底を通過して、評価対象のサンプルと相互作用します。下面照射測定では、近赤外分析計 ProxiMate™に対して、より一貫した測定面が確保されるため、正確な測定結果が得られるという利点があります。最高のパフォーマンスを可能にするには、ガラスのペトリ皿が推奨されます。また、透過反射アダプターと組み合わせて使用すると、下面照射で液体を測定することも可能です。



備考

再現性の高い測定または液体の測定のためには、下面照射オプションを選んでください。

3.2.2 上面照射オプション

上面照射オプションでは、光はサンプルの上面から当てられ、収集されます。ガラスが禁止されている環境（一部の食品生産分野など）では、上面照射モードには、NIR光がサンプルの容器と相互作用しないという利点があります。プラスチックは独自のNIRスペクトルを持つため、容器の種類の変化が測定結果に影響して、測定のずれに気づくことがあります。上面照射

モードを使用することで、これを防ぐことができます。また、近赤外分析計 ProxiMate™の上面照射では、大容量のサンプル容器を使用することもできます。これは、より大きなサンプル面積にわたって測定値が平均化されるため不均質なサンプルで特に便利です。



備考

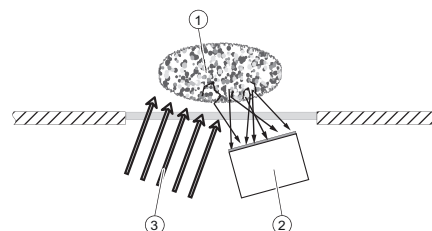
ガラスが禁止されている環境や、大量のサンプルによる平均化が必要な場合には、上面照射オプションを選んでください。

3.3 測定モード

3.3.1 拡散反射モード

非透過性材料は拡散反射を用いて解析できます。

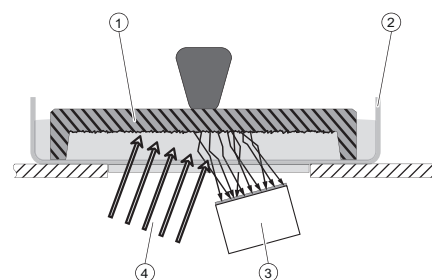
近赤外光の透過はサンプルの材質による制限を受け、サンプルに反応し、屈折してセンサーに拡散反射します。そうした反射光にはそのサンプルの分光情報が含まれています。



- ① サンプル
- ② センサー
- ③ ライト

3.3.2 透過反射モード

半透明および不透明な液体は、透過反射モードで分析できます。光は液体を透過し、反射板によって拡散反射され、もう一度サンプルを通過します。透過反射光にはサンプルのスペクトル情報が含まれます。



- ① 透過反射カバー
- ② サンプルカップ
- ③ センサー
- ④ 光

3.4 構成

3.4.1 前面図

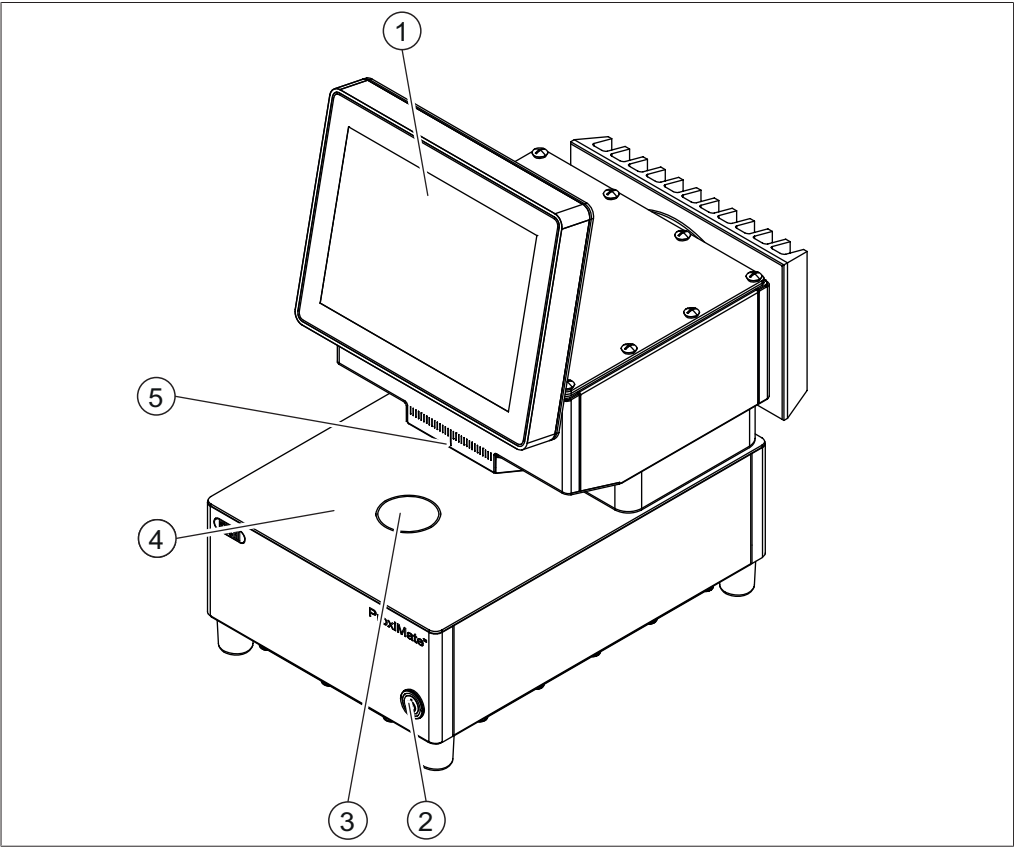


図 1: 前面図

- | | | | |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | コントロールパネル | 2 | 電源スイッチ |
| 3 | 下面照射ウィンドウ | 4 | 測定オプションエリア |
| 5 | 上面照射ウィンドウ | | |



備考

本機は定置式として設計されているため、電源プラグを備えていません。

On/Offマスタースイッチによって電源供給は中断されません。

► 5.4章「電気接続の確立」、22ページを参照。

主電源スイッチのステータス

ステータス	説明
消灯	機器の電源が入っていません。
点灯	機器の電源が入っています
点滅	機器がシャットダウンしています

3.4.2 背面図

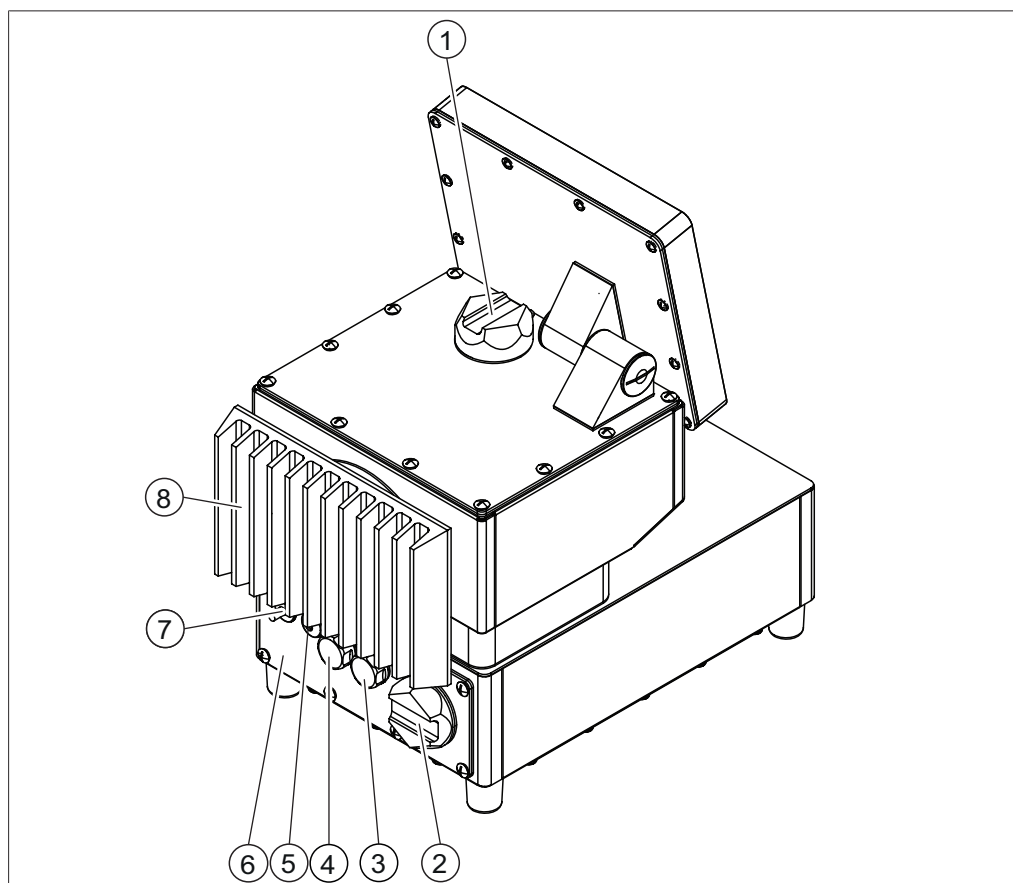


図 2: 背面図（アドバンスドIPモジュール搭載時）

- | | | | |
|---|-------------------|---|---------------|
| 1 | 上面照射ランプカバー蓋 | 2 | 乾燥剤カートリッジカバー蓋 |
| 3 | USBソケット | 4 | USBソケット |
| 5 | ネットワーク接続用ケーブルグラント | 6 | アドバンスドIPモジュール |
| 7 | 電源用ケーブルグラント | 8 | クーラー |

本機の接続部はアドバンスドIPモジュールの裏にあります。3.4.3章「接続部（IPモジュールを取り外した状態）」、16ページを参照。

3.4.3 接続部（IPモジュールを取り外した状態）

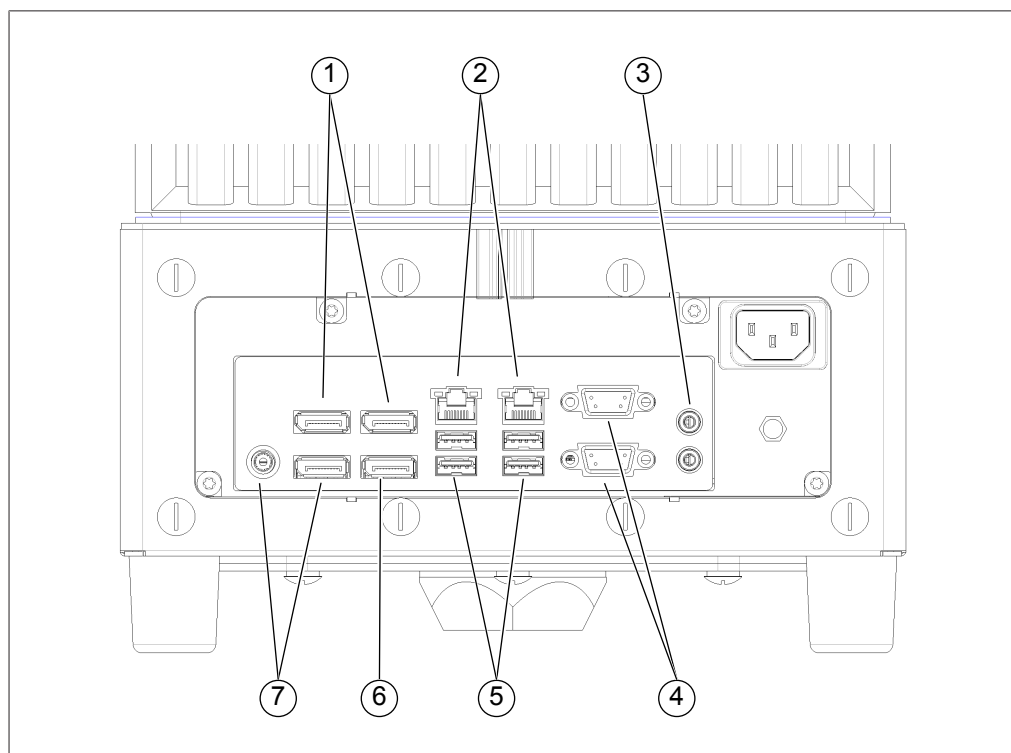


図 3: 背面の接続部

- | | | | |
|---|--------|---|-----------|
| 1 | 使用不可 | 2 | ネットワーク |
| 3 | オーディオ | 4 | 無効 |
| 5 | USBポート | 6 | ディスプレイポート |
| 7 | 使用なし | | |

3.4.4 銘板の位置

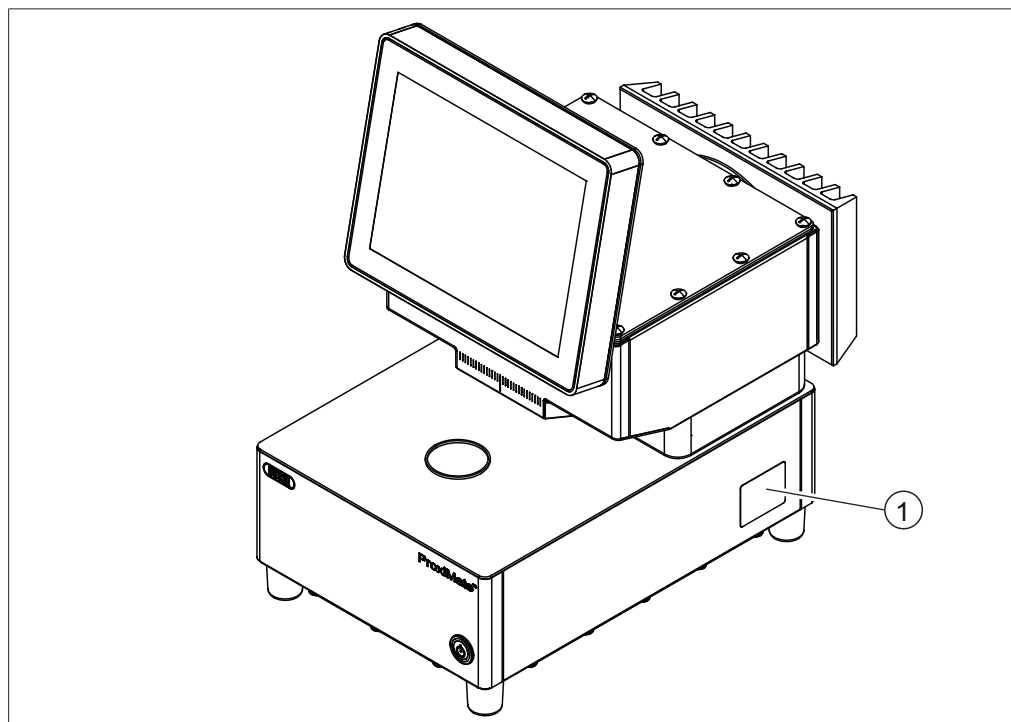


図 4: 銘板の位置

1 銘板

3.5 納入品目



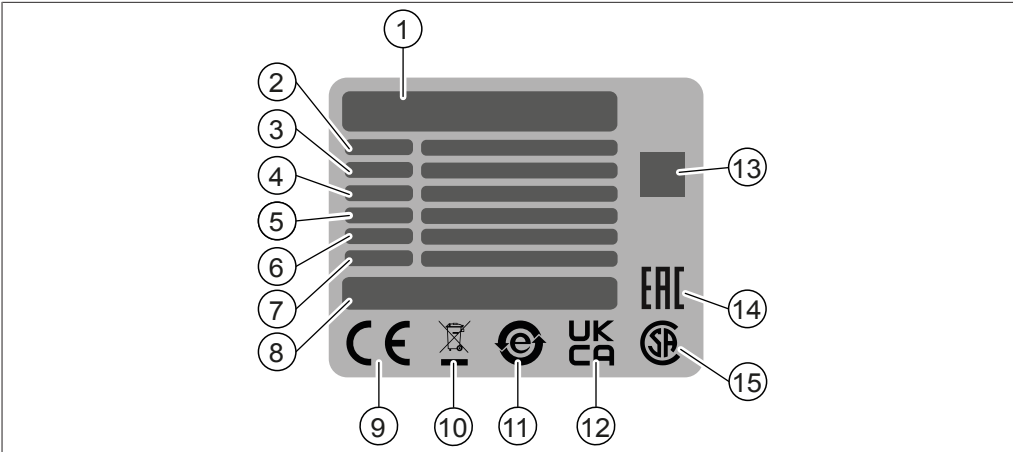
備考

納入品目は、発注書に記載されている構成に基づきます。

付属品は、発注書、注文確認書、および納品書の記載に従って納入されます。

3.6 銘板

ラベルは、機器を識別するためのものです。ラベルの一例を以下に示します。詳細については、ご利用の装置のラベルを参照してください。
ラベルは装置の背面にあります。



- | | | | |
|----|--|----|------------------------------|
| 1 | 会社名および所在地 | 2 | 装置名 |
| 3 | シリアル番号 | 4 | 入力電圧範囲 |
| 5 | 周波数 | 6 | 最大消費電力 |
| 7 | 製造年 | 8 | 原産国 |
| 9 | 「CE 適合」のシンボルマーク | 10 | 「家庭ごみとして廃棄しないこと」の表示 |
| 11 | 「電子機器リサイクル」の表示 | 12 | 「UK 適合性評価」のシンボルマーク |
| 13 | QR コードには
「品番、シリアル番号」に関する情報が
含まれます。 | 14 | 「ユーラシア適合」のシンボルマーク
(オプション) |
| 15 | 「CSA 認証」のシンボルマーク (オプ
ション) | | |

3.7 仕様

3.7.1 近赤外分析計 ProxiMate™

仕様	近赤外分析計 ProxiMate™
寸法 (W x D x H)	260 x 435 x 500 mm
重量	23 kg
消費電力	60 W
周波数	50 / 60 Hz
電源電圧	100 - 240 VAC ±10 %
すべてのUSBポートの最大出力	5 W
IPコード	IP69
過電圧カテゴリー	II
汚染度	2
感電保護クラス	I
検出器NIR	熱電冷却InGaAs
検出器VIS	Si
NIR波長範囲	900 - 1700 nm
NIR分解能	7.0 nm
NIRデータ分解能	3.1 nm
VIS波長範囲	400 - 900 nm
VIS分解能	15 nmより良好
VISデータ分解能	2 nm
下面照射照明スポットサイズ	8 mm

仕様	近赤外分析計 ProxiMate™
上面照射照明スポットサイズ	30 mm
認可	CE / CSA
ランプタイプ	タングステンハロゲン
平均寿命 (ランプ)	7000時間
ディスプレイ	10.4インチ

3.7.2 設置環境

屋内使用のみ。

最高海拔	2000 m
周囲温度	5 - 40°C (25°C)
最大相対湿度	温度31°Cまでは80% 40°Cで相対湿度50%まで直線的に低下
保管温度	最高45°C

3.7.3 材質

部品	材質
ハウジング	ステンレス1.4301
ハウジングシール	EPDM 50
ハウジング	アルミニウムコーティング
ハウジングシール	EPDM 70
下面照射ガラス	サファイアAl ₂ O ₃
上面照射ガラス	Borofloat
ガラスシール	EPDM A 75
クーラー	アルミニウムコーティング EPOFLON 526/4562
フレームクーラーシーリング	HD-PE
クーラーシール	EPDM
ディスプレイ	ガラス
ディスプレイフレーム	ステンレス1.4301
ディスプレイシール	1K MS-Polymer Körpop 225
ワイヤーモジュールシール	FKM
USB/Wi-Fiハウジング	ステンレス1.4301
USB/Wi-Fiカバー	PE-HD
USB/Wi-Fiシール	シリコン

4 運搬と保管

4.1 運搬



注意事項

不適切な運搬による破損の危険性

- ▶ 装置が完全に分解されていることを確認してください。
- ▶ 装置の各部品は破損を防ぐために適切に梱包してください。可能であれば工場出荷時の梱包材を使用してください。
- ▶ 輸送時には急激な動きを避けてください。

- ▶ 輸送後、装置およびすべてのガラス部品に損傷がないことを確認してください。
- ▶ 輸送中に損傷が発生した場合、輸送業者に報告してください。
- ▶ 梱包材は将来の輸送のために保管してください。

4.2 保管

- ▶ 環境条件が守られていることを確認してください（3.7章「仕様」、18ページを参照）。
- ▶ 装置は、なるべく純正梱包材の中に保管してください。
- ▶ 保管終了後、装置に損傷がないかを点検し、必要に応じて交換してください。

4.3 本機の持ち上げ



警告

不適切に運搬した場合の危険性

圧挫傷、切り傷、破損などが考えられます。

- ▶ 本装置は必ず2人で運搬してください。
- ▶ 装置を持ち上げる際には、指定された箇所を保持してください。

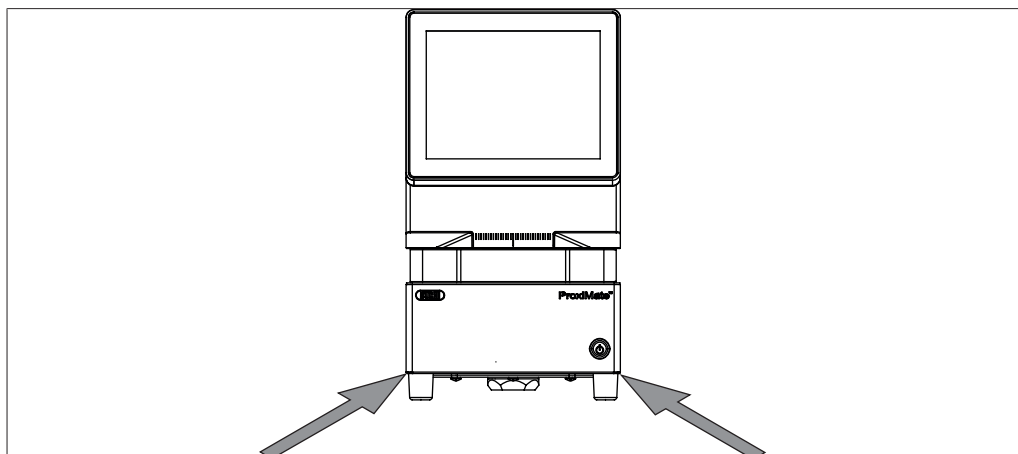


図 5: 本機の持ち上げ

- ▶ 本機を持ち上げるには、2名の作業者のそれぞれが、本機の底面に示されている位置を持ち上げる必要があります。

5 設置

5.1 設置前



注意事項

スイッチを入れるのが早すぎることによる本機の損傷。

運搬後、本機のスイッチを入れるのが早すぎると、損傷することがあります。

▶ 運搬後は、本機を周囲温度になじませてください。

5.2 設置場所

設置場所は、以下の要件を満たしている必要があります。

- 水平で振動のない硬い表面。
- 最小スペース要件：260 mm x 435 mm x 500 mm (W x D x H)。
- 製品の最大寸法および重量を考慮してください。
- 本機を直射日光などの過度な温度負荷にさらさないでください。



備考

緊急時には、電源コードを抜いてください。

5.3 地震に備えた固定

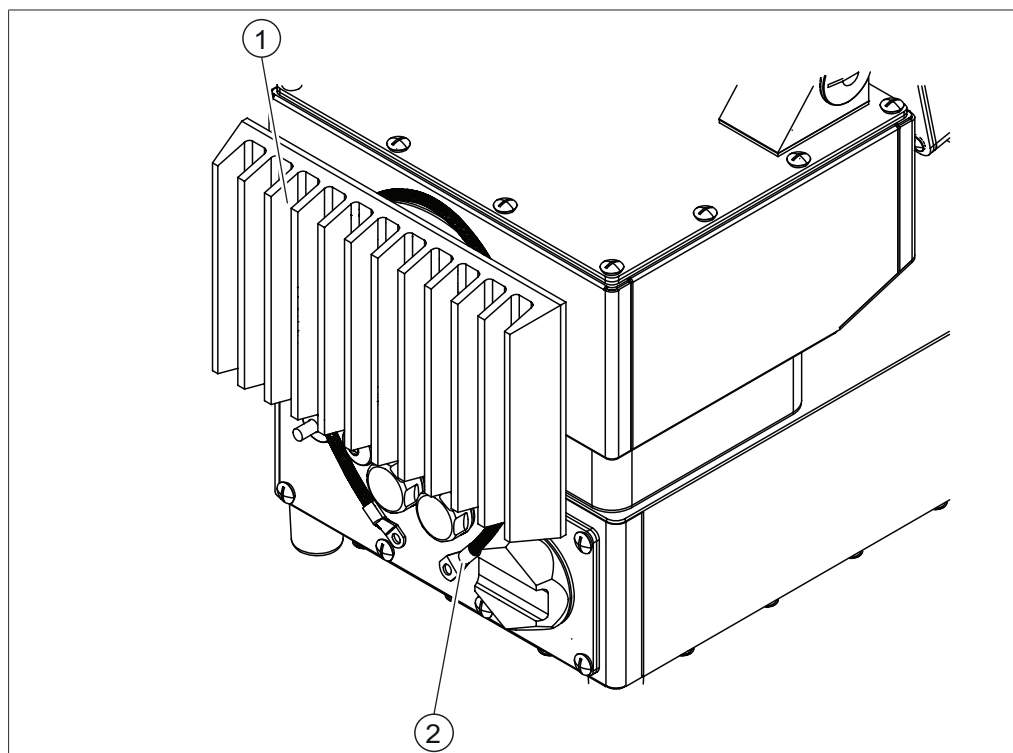


図 6: 地震に備えた固定

1 クーラー

2 コード

▶ コードをクーラーの周囲に巻いて、固定点に取り付けます。

5.4 電気接続の確立



警告

電流による死亡または重度の火傷。

- ▶ 設置作業は、電気技師または同様の専門知識を持つ人に依頼してください。
- ▶ 設置後、電気的安全性をチェックしてください。

本装置は据置型として設計されています。

条件:

- ☒ 電氣的仕様は技術データに記載されています。3.7章「仕様」、18ページ（技術データ）を参照してください。
- ☒ 設置場所は技術データに指定されています。3.7章「仕様」、18ページ（技術データ）を参照してください。
- ▶ 設置は、電気工事の専門職またはそれに準ずる専門知識を有する人が行ってください。
- ▶ 説明書に従って設置を行ってください。「*Guide for electrical installation*（電気設備工事ガイド）」を参照してください。

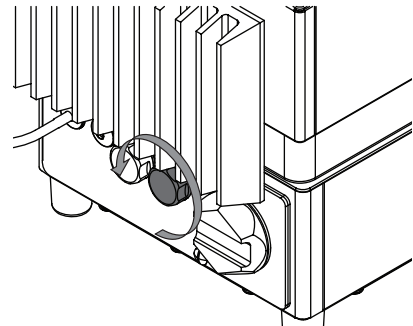
5.5 USBデバイスの取り付け



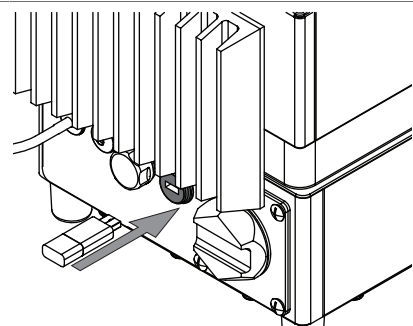
備考

USBソケットがカバー蓋または保護カバーでカバーされていることを確認してください。

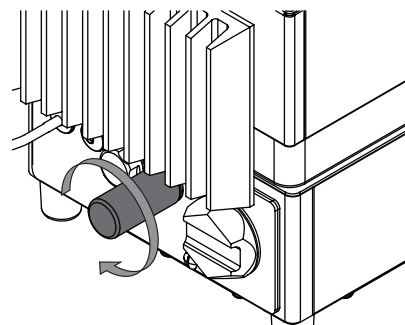
- ▶ USBソケットのカバー蓋の1つを開きます。



- ▶ USBデバイスをUSBソケットに接続します。



- ▶ 保護カバーを取り付けます。



5.6 ソフトウェア設定

5.6.1 ソフトウェアまたはアプリケーションのライセンス申請

ライセンス申請には以下のデータが必要です。

- 製品名
- 製品番号（ソフトウェアまたはアプリケーションの品番）
- シリアル番号（ソフトウェアライセンスのシリアル番号/クイックガイドの表紙に貼付されているステッカー、または本装置のシリアル番号）
- 会社名
- 名
- 姓
- シリアル番号
- 国
- 電子メールアドレス

ナビゲーションパス

→  → [ライセンスリクエスト]

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。

- ▶ [ライセンス申請]ボタンをタップします。

⇒ 画面にライセンス申請メニューを含むダイアログボックスが表示されます。

License Request

Article Name	Host ID
	4C52620FA588
Article No.	Serial Number
Company Name	Country
First & Last Name	E-Mail

Create

Cancel

- ▶ **[編集]**ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 必須情報を入力します。
- ▶ **[作成]**をタップしてライセンス申請ファイルを保存します。
- ⇒ 画面にライセンス申請ファイルの確認とその場所を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ その場所を開き、ライセンス申請ファイルをUSBスティックなどに保存します。
- ▶ ライセンス申請ファイルと簡単な説明をregistration@buchicomまでお送りください。
- ⇒ 折り返しでライセンスファイルが届きます。

5.6.2 ライセンスのインポート

ナビゲーションパス

→  → **[ライセンスのインポート]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☒ 有効な（正しいシリアル番号と日付の）ライセンスファイルを使用できます。
- ▶ **[ライセンスのインポート]**ボタンをタップします。
- ⇒ 画面にフォルダの場所を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ インポートする必要があるライセンスファイルの場所に移動します。
- ▶ ライセンスファイルを選択し、**[OK]**で確認します。
- ⇒ 画面にライセンスファイルが正常にインポートされたことを確認するダイアログボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]**で確認します。

⇒ 使用可能なライセンスについては、**情報**セクションをご覧ください。

対応するアプリケーションをインポートする前に、NIRWiseソフトウェアを再起動する必要があります。

5.6.3 BCV検量を実行する権限の変更

BCVの検量権限は、オペレーターを含むすべてのユーザーに付与することも、管理者とサービスユーザーにのみ付与することもできます。

ナビゲーションパス

→  → **[一般設定]**

条件:

☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

▶ ナビゲーションパスで**[一般設定]**ビューに移動します。

▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。

▶ **[BCV権限]**アクションをタップします。

⇒ 画面に選択可能なユーザーを含むダイアログボックスが表示されます。

▶ BCV検量を実行できるユーザーを選択します。

▶ **[OK]**で確認します。

5.6.4 ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正

ナビゲーションパス

→  → **[BCVの校正]**

条件:

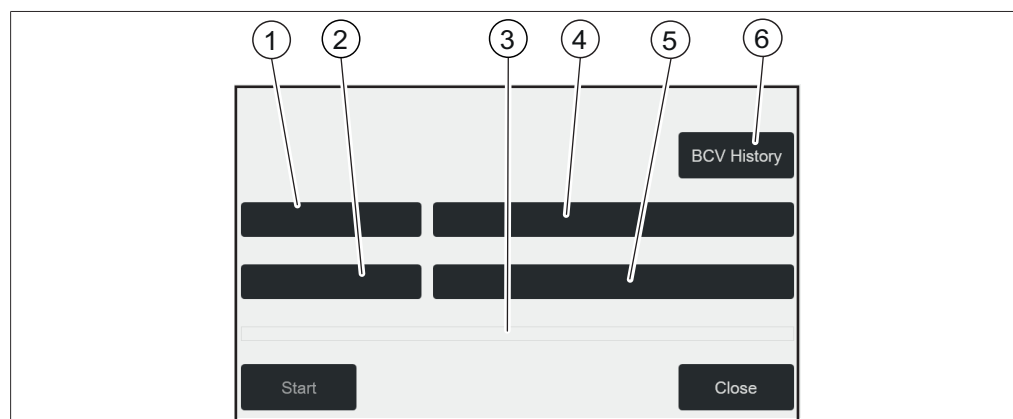
☒ 現在のユーザーは、BCV検量を実行することが許可されています。5.6.3章「BCV検量を実行する権限の変更」、25ページを参照してください。

☒ 測定オプションが定義されています。

☒ 本装置は、2時間以上の連続運転によって安定化されます。

▶ ナビゲーションパスを使用して**[BCVの検量]**アクションに移動します。

⇒ ソフトウェアにダイアログボックスが表示されます。



1 照射モード

2 外部リファレンス

3 進行状況 (ビュー)

4 測定モード

5 測定オプションID

6 BCV履歴

固体サンプルの検量線設定の定義

- ▶ **[照射モード]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [照射モード] メニューが表示されます。
- ▶ 検量するモードに応じて、**[下面]**または**[上面]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定モード]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [測定モード] メニューが表示されます。
- ▶ **[拡散反射]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[外部リファレンス]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [外部リファレンス] メニューが表示されます。
- ▶ 外部白色リファレンス上のステッカーに対応する番号を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定オプション]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [測定オプション] メニューが表示されます。
- ▶ **[デフォルト]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。

液体サンプルの検量線設定の定義

- ▶ **[照射モード]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [照射モード] メニューが表示されます。
- ▶ 液体測定の検量を行うには、**[下面]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定モード]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [測定モード] メニューが表示されます。
- ▶ **[透過反射]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[外部リファレンス]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [外部リファレンス] メニューが表示されます。
- ▶ **[透過反射]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定オプション]**をタップします。
 - ⇒ 画面に [測定オプション] メニューが表示されます。
- ▶ [アプリケーション] メニューで、アプリケーション用に作成した測定オプションを選択します。
- ▶ リストに**[デフォルト]**のみが表示されている場合は、**[新規]**を選択して名前を入力します。
 - ⇒ 新しい測定オプションIDが作成されます。これは1回のみ行う必要があります。
- ▶ 新しい測定オプションIDを選択します。この測定オプションIDはアプリケーション設定でも使用されていることを確認してください。

BCV履歴を使用したBCV検量線設定のロード

- ▶ **[BCV履歴]**をタップします。
 - ⇒ 画面に過去に使用された設定を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要な設定を選択します。

▶ **[選択]**で確認します。

⇒ BCV検量線設定は、選択した履歴に基づいて自動的に入力されます。

下面照射モードで外部白色リファレンスの測定

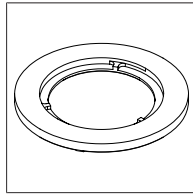


図 7: 下面照射用薄型スペーサーリング

条件:

☒ 設定は正しく定義されています。

☒ 白色リファレンスはきれいで損傷していません。

- ▶ 本装置に位置決めプレートを置きます。
- ▶ 下面照射モード用薄型スペーサーリングを、下面照射ウィンドウの上にある位置決めプレートの丸い切り欠き部分に置きます。
- ▶ 蓋を回して外し、白色リファレンスを開けます。
- ▶ 白色リファレンスの表を下にして、薄型スペーサーリングの上に置きます。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。
- ▶ 検量中は画面の指示に従ってください。
- ▶ **[OK]**をタップして指示を確認します。

⇒ システムから、外部白色リファレンスを4回回転させるように指示されます。

▶ スペーサーリングを回して、外部リファレンスを回転させます。

⇒ 画面に検量が成功したことを示す確認メッセージが表示されます。

⇒ BCV検量後、ランプが2分間予熱されます。

- ▶ BCV検量が成功したら、NIRWiseソフトウェアを再起動します。
- ▶ 両面照射装置の場合、上面照射モードの検量を繰り返します。

上面照射モードにおける外部白色リファレンスの測定

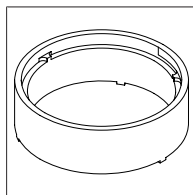


図 8: 上面照射用厚型スペーサーリング

条件:

☒ 設定は正しく定義されています。

☒ 白色リファレンスはきれいで損傷していません。

- ▶ 本装置に位置決めプレートを置きます。
- ▶ 上面照射モード用の厚型スペーサーリングを、上面照射ウィンドウの下にある位置決めプレートの丸い切り欠き部分に置きます。
- ▶ 蓋を回して外し、白色リファレンスを開けます。
- ▶ 白色リファレンスの表を上にして、厚型スペーサーリングの上に置きます。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。

- ▶ 検量中は画面の指示に従ってください。
- ▶ **[OK]**をタップして指示を確認します。
 - ⇒ システムから、外部白色リファレンスを4回回転させるように指示されます。
- ▶ スペーサーリングを回して、外部リファレンスを回転させます。
 - ⇒ 画面に検量が成功したことを示す確認メッセージが表示されます。
 - ⇒ BCV検量後、ランプが2分間予熱されます。
- ▶ BCV検量が成功したら、NIRWiseソフトウェアを再起動します。
- ▶ 両面照射装置の場合、上面照射モードの検量を繰り返します。

下面照射モードにおける透過反射カバーの測定

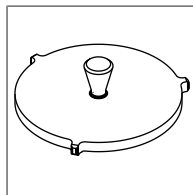


図 9: 下面照射モードにおける液体測定用の透過反射カバー

条件:

- ☒ 設定は正しく定義されています。
- ☒ 透過反射カバーはきれいで損傷していません。
- ☒ サンプルカップはきれいで傷ありません。
- ▶ 空のサンプルカップを下面照射測定位置に置きます。
- ▶ 空のサンプルカップに透過反射カバーを入れます。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。
- ▶ 検量中は画面の指示に従ってください。
- ▶ **[OK]**をタップして指示を確認します。
 - ⇒ システムから、外部リファレンスを4回回転させるように指示されます。
- ▶ 透過反射カバーを回します。
 - ⇒ 画面に検量が成功したことを示す確認メッセージが表示されます。
 - ⇒ BCV検量後、ランプが2分間予熱されます。
- ▶ BCV検量が成功したら、NIRWiseソフトウェアを再起動します。

5.6.5 リファレンスデータのインポート



備考

保存フォルダーの場所は固定されています。10.2章「ファイルの説明とフォルダの場所」、116ページを参照。

ナビゲーションパス

→  → **[外部リファレンスデータのインポート]**

条件:

- ☒ リファレンスデータファイルはコンピュータに保存されています。

- ▶ ナビゲーションパスで[外部リファレンスデータのインポート]アクションに移動します。
- ⇒ 画面に**外部リファレンスデータのインポート**ダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 入力ボックスのファイルの横にあるボタンをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能なリファレンスデータを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ インポートファイルを選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ▶ **[インポート]**ボタンをタップします。
- ⇒ 外部リファレンスがインポートされます。

5.6.6 ソフトウェアの言語の変更

ナビゲーションパス

→  → **[一般設定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**一般設定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[選択した言語]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な言語を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 言語を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 画面にダイアログボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップして、ダイアログボックスを確定します。
- ▶ ソフトウェアを再起動します。

5.6.7 順番フィールドと注記フィールドのラベルを変更

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[順番 - カスタムラベル]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ ラベルの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じて、新しいラベルが表示されます。

- ▶ **[注記 - カスタムラベル]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ ラベルの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じて、新しいラベルが表示されます。

5.6.8 測定繰り返し回数の編集

サンプルは、1回、2回、または3回の繰り返しとして測定できます。2回または3回の繰り返し測定では、繰り返し測定の間にサンプルを詰め替えることができます。2回または3回の繰り返し測定を行うと、平均予測値とスペクトルを含む履歴エントリが1つ作成されます。

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[繰り返し測定]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログが表示されます。
- ▶ 必要な繰り返し回数を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。

5.6.9 測定ワークフローの変更

測定ワークフローでは以下の2つのことができます。

- 1.すべての測定値は**[保存]**ボタンで保存されます。メタデータフィールドは、緑のコントロールボタンで測定を開始する前に編集できます。
- 2.緑のコントロールボタンを押して次の測定を開始すると、測定値が自動的に保存されます。新しい測定を開始する前に、メタデータを編集することはできません。

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[測定を終了して保存]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値（オプション1の場合は**[はい]**、オプション2の場合は**[いいえ]**）を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.10 順番ボタンの設定を調整

順番ボタンは、各測定後にクリアすることも、値を記憶させることもできます。値はいつでも編集可能です。

ナビゲーションパス

→  → [測定]

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[順番のクリア]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.11 履歴メニューの時刻および日付形式を調整

ナビゲーションパス

→  → [測定]

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[タイムスタンプ形式のサンプル]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.12 履歴メニューに表示されるサンプルの最大数を編集

ナビゲーションパス

→  → [測定]

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[表示する測定結果の最大件数]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログが表示されます。
- ▶ 100～15,000の数値を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じて、新しいラベルが表示されます。

5.6.13 CSV形式のオプションを変更

ナビゲーションパス

→  → [レポート]

条件:

☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで**レポート**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[CSV形式のオプション]**アクションをタップします。
- ▶ **[測定値の並べ替えタイプ]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[その他の数値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[予測値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[参照値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[スペクトル値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[タイムスタンプ形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[波長形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。

- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.14 XML形式のオプションを変更

ナビゲーションパス

→  → **[レポート]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで**レポート**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[XML形式のオプション]**アクションをタップします。
- ▶ **[測定値の並べ替えタイプ]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[その他の数値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[予測値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[参照値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[スペクトル値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[タイムスタンプ形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

- ▶ **[波長形式]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.15 JCAMP形式のオプションを変更

ナビゲーションパス

→  → **[レポート]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**レポート**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[JCAMP形式のオプション]**アクションをタップします。
- ▶ **[測定値の並べ替えタイプ]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[その他の数値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[予測値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[参照値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[スペクトル値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[タイムスタンプ形式]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。

- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[波長形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.16 ログエントリの削除サンプル数の調整

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアはサービスモードになっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ **その他の閾値**に移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[ログビューで削除する測定結果の最小件数]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログが表示されます。
- ▶ 数値を挿入します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.17 検量比較の基準の変更

ナビゲーションパス

→  → **[検量設定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**[検量設定]**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[品質基準]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能なオプションを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要なオプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。

5.6.18 自動バックアップの設定

本装置の電源がオンになっている限り、自動バックアップは週単位または月単位で実行できません。

ローリングバックアップの最大数を設定できます。この最大数に達すると、新しいバックアップを保存する際に、最も古いバックアップが削除されます。



備考

バックアップの実行中は、本装置を使用できません。

- ▶ 本装置の使用状況に応じて自動化を設定します。



備考

ディスクが設定に従って必要な数のローリングバックアップをサポートできることを確認してください。

- ▶ 数が多すぎる場合は、ロールバックバックアップの数を減らしてください。



備考

バックアップの保存先は、Windowsのユーザー環境変数で設定できます。

ナビゲーションパス

→  → **[一般設定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで**[一般設定]**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[自動バックアップ設定]**アクションをタップします。
- ▶ **[バックアップの種類]**アクションをタップします。
- ▶ 必要なバックアップオプションを選択します。
 - ⇒ 画面に選択可能なバックアップオプションを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[日]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な曜日を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要な曜日を選択します。
- ▶ **[最大ローリングバックアップ]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログが表示されます。
- ▶ 保持するローリングバックアップの数を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[時間帯]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ バックアップの開始時刻をHH:mm:ss形式で入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。

5.6.19 QRコードリーダーの設定の調整

QRコードを使用してサンプルメタデータを読み取る場合は、通信フォーマットを確立する必要があります。QR通信チャンネルとして、次のオプションを使用できます。

- キーボードエミュレーション
- シリアルポート/Bluetooth（WindowsペアリングによるBluetooth QRスキャナとの通信もサポート）
- TCP/IP
- HTTP/REST API

次のデータエンコードには、次のオプションを使用できます。

- Key-Valueのペア（キーと値を特定の文字で区切られたテキスト行に整理されたデータ）
- JSON
- XML
- CSV/TSV（列で構成されたヘッダー行とデータ行を持つファイル）
- 位置指定値（フィールド名を含まない値のリストで、選択した文字で区切られている）
- PowerShellスクリプト（上記のいずれのオプションにも該当しない場合）

ナビゲーションパス

→  → **[一般設定]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**[一般設定]**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[QRリーダー]**アクションをタップします。
- ▶ **[有効]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能なユーザーを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要なオプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[QR通信]**アクションをタップします。
 - ⇒ 選画面に択可能な通信チャンネルを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要なオプションを選択します。
- ▶ **[次へ]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択した通信チャンネルの設定を含むダイアログボックスが表示されず。
- ▶ 必要な設定を編集します。
- ▶ **[保存]**機能をタップします。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[QRデータエンコード]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能なデータエンコードオプションを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要なオプションを選択します。
- ▶ **[次へ]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に選択したデータエンコード形式の設定を含むダイアログボックスが表示されます。

- ▶ 必要な設定を編集します。
- ▶ **[保存]**機能をタップします。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

6 操作



⚠ 注意

ガラスの破片で怪我の生じる危険があります。

鋭利な物で画面が損傷するおそれがあります。

▶ 鋭利な物を画面に近づけないでください。

6.1 コントロールパネルのレイアウト



図 10: コントロールパネル

番号	説明	機能
1	ステータスバー	本機の現在の状態を示します。 6.4章「ステータスバー」、53ページを参照。
2	メニューバー	メニューを表すシンボルを表示します。 6.3章「メニューバー」、41ページを参照。
3	コンテンツエリア	現在の操作に応じて、現在の設定、サブメニュー、またはアクションを表示します。
4	機能バー	現在の操作に従って実行できる機能を表示します。 6.2章「機能バー」、39ページを参照。

6.2 機能バー

ファンクションバーには、現在の操作に応じて利用可能な機能が表示されます。ファンクションバー上の機能は、該当する機能ボタンをタップすることで実行されます。

シンボルマーク	説明	意味
	[戻る]	画面が前のビューに戻ります。
	[保存]	測定結果を保存します。

シンボルマーク	説明	意味
	[スイッチオフ]	本機をシャットダウンします。
	[選択]	マークされたアプリケーションを選択します。
	[ログイン]	画面に ログイン ダイアログが表示されます。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。
	[すべて選択]	リスト内のすべての測定を選択します。 注意事項 複数選択が有効な場合のみ使用できます。
	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[編集]	選択された項目の編集を可能にします。
	[新規作成]	新しいアプリケーションまたはプロパティを作成します。
	[削除]	選択された値を削除します。
	[コピー]	マークされたアプリケーションをコピーします。
	[AutoCal]	AutoCalを実行します。
	[インポート]	データをインポートします。
	[エクスポート]	選択されているデータをエクスポートできます。
	[測定データのインポート／エクスポート]	機能に応じて、データをインポートまたはエクスポートします。
	[情報]	装置とインストール済みライセンスに関する情報を表示します。
	[ページ全体]	レポートをページ全体に合わせて表示します。
	[ページ幅]	レポートをページ幅に合わせて表示します。
	[Windowsを表示]	表示がWindows® Surfaceに切り替わります。

6.3 メニューバー

メニューは、メニューバーのシンボルによって表されます。メニュー内の移動はタッチスクリーンで行われます。

以下のメニューが使用可能です。

メニューシンボル	意味	アクション
	[開始] メニュー	測定を実行します。 6.3.1章 「開始メニュー」、42ページを参照。
	[履歴] メニュー	- 完了した測定の結果を表示します。 - レポートを作成します。 - サンプルの参照値を入力します。 - サンプルを検量線モデルに追加します。 - AutoCal機能で検量線モデルを更新します。 - 測定データをエクスポートします。 6.3.2章 「履歴メニュー」、46ページを参照。
	[アプリケーション] メニュー	アプリケーションを作成、編集、または選択します。 6.3.3章 「アプリケーションメニュー」、51ページを参照。
	[ツール] メニュー	- 構成、保守、およびシステムテストを設定します。 - 装置のログおよびその他の装置カウンターを表示します。 - ライセンスリクエストおよびインポート機能。 - リモートセッションをセットアップします。 - ログイン権限を変更します。 6.3.4章 「ツールメニュー」、52ページを参照。
	[設定] メニュー	装置の設定を編集します。 管理者モードでのみ使用可能です。

6.3.1 開始メニュー

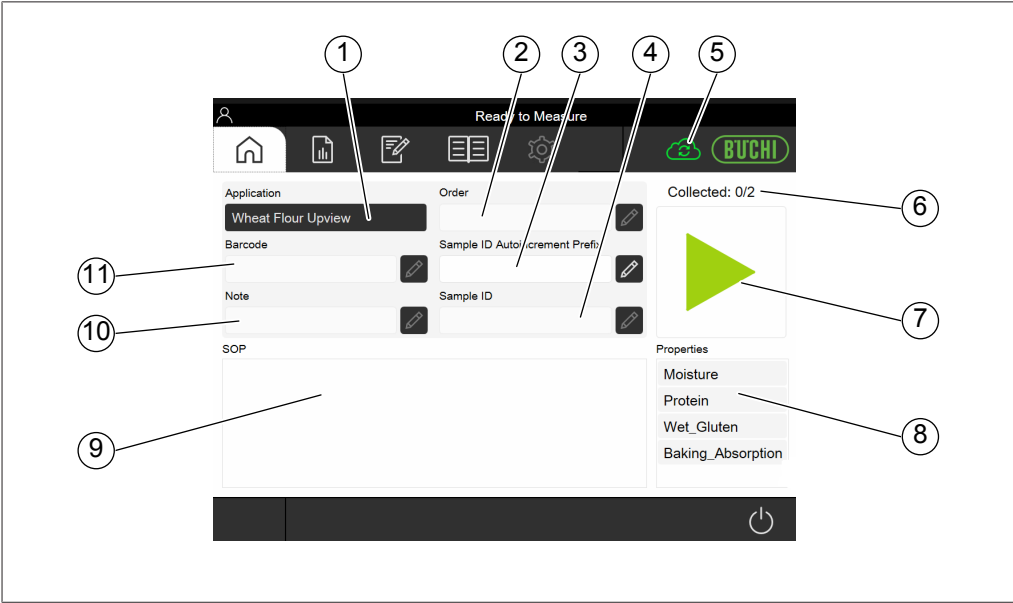


図 11: 開始メニュー

- | | | | |
|----|-------------------------------|----|-----------------------|
| 1 | 選択したアプリケーションを表示 | 2 | 順番 |
| | | | 章「順番の挿入」、45ページを参照 |
| 3 | サンプルID自動増分接頭辞については、 | 4 | サンプルID |
| | 章「サンプルIDの自動増分接頭辞の挿入」、44ページを参照 | | 章「サンプルIDの挿入」、43ページを参照 |
| 5 | NIRWise REST APIサービスステータス | 6 | 繰り返し測定のカウンター（有効な場合） |
| 7 | コントロールボタン | 8 | 選択したアプリケーションの測定項目を表示 |
| 9 | 選択したアプリケーションの標準業務手順を表示 | 10 | 注記 |
| | | | 章「注記の挿入」、44ページを参照 |
| 11 | バーコード | | |
| | 章「バーコードの挿入」、44ページを参照 | | |

コントロールボタン

[コントロール]ボタンには、次の記号が表示されることがあります。

記号	意味
	- 測定が完了しました。 - 試験対象サンプルは仕様書に記載されています。 - 記号をタップすると、本装置が測定を実行します。
	目標値とは、その製品に期待されるパラメータのことです。 目標値はアプリケーション内で定義されます。

記号	意味
	- 繰り返し測定が完了しました。 - 本装置は次の繰り返し測定を行う準備ができています。
	- 使用可能なアプリケーションはありません。 - 測定できません。
	- 測定が完了しました。 - 予測値が許容範囲外です。 <div data-bbox="670 734 746 810" data-kind="parent" data-rs="2"></div> <p>許容範囲とは、目標値からの許容される差のことです。 許容範囲はアプリケーション内で定義されます。</p>
	- 測定が完了しました。 - 検量線モデルがありません。 - マハラノビス異常値 - 予測値が検量範囲外です。 - 予測値が設定限界の範囲外です。 <div data-bbox="670 1115 746 1191" data-kind="parent" data-rs="2"></div> <p>限界は絶対値です。 限界はアプリケーション内で定義されます。</p>
	- 測定が進行中です。 - 測定をキャンセルします。

サンプルIDの挿入

サンプルIDは分析対象のサンプルを識別するラベルです。

ナビゲーションパス



- ▶ **[サンプルID]**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ サンプル番号、名前、またはコードを入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルIDが保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

サンプルIDの自動増分接頭辞の挿入

〔サンプルIDの自動増分接頭辞〕は、入力した接頭辞に基づいて自動的にサンプルIDの増分を生成します。アプリケーションが変更されない限り、この接頭辞は記憶されます。アプリケーションが変更されると、〔サンプルIDの自動増分接頭辞〕はリセットされます。

ナビゲーションパス



- ▶ **〔サンプルIDの自動増分接頭辞〕**の横にある  ボタンをタップします。
- ▶ **〔サンプルIDの自動増分接頭辞〕** を入力します。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
- ▶ **[コントロール]** ボタンをタップします。
 - ⇒ **〔サンプルID〕** フィールドには、**〔サンプルIDの自動増分接頭辞〕** とそれに続く #001 が自動的に入力されます。
 - ⇒ 機器が測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに **[測定中]** ステータスが表示されます。
 - ⇒ 測定が終了し、予測値が表示されます。
- ▶ **[コントロール]** ボタンをタップします。
 - ⇒ **〔サンプルID〕** フィールドには、**〔サンプルIDの自動増分接頭辞〕** とそれに続く #002 が自動的に入力されます。
 - ⇒ 機器が測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに **[測定中]** ステータスが表示されます。
 - ⇒ 測定が終了し、予測値が表示されます。

バーコードの挿入

バーコードは分析対象のサンプルを識別するラベルです。バーコードリーダーを接続できます。バーコードリーダーを設定すると、このラベルを使用して、分析対象のサンプルを識別できます。代替手段として、バーコードを手動で挿入できます。

ナビゲーションパス



- ▶ **〔バーコード〕**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ サンプルのバーコードを入力します。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップします。
 - ⇒ バーコードが保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

注記の挿入

〔注記〕は分析対象のサンプルを識別するラベルです。デフォルト設定では、〔注記〕は必須フィールドではありません。

ナビゲーションパス



- ▶ **[注記]**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 値を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 注記が保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

順番の挿入

〔順番〕は分析対象のサンプルを識別するラベルです。デフォルト設定では、〔順番〕は必須フィールドではありません。

ナビゲーションパス



- ▶ **[順番]**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 値を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 順番が保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

6.3.2 履歴メニュー

[履歴]メニューに、過去の測定データがリスト表示されます。

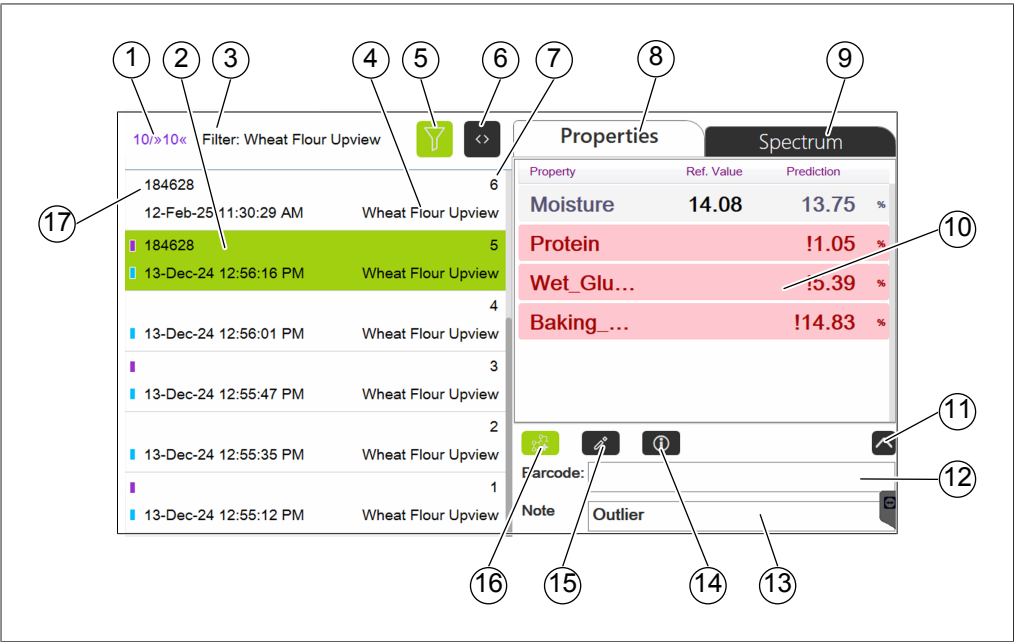


図 12: [データ] メニュー

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 1 表示サンプル数/総サンプル数（適用済みフィルターの場合） | 2 タイムスタンプ |
| 3 適用済みフィルター | 4 アプリケーション名 |
| 5 [フィルター] ボタン | 6 [拡張ビュー] ボタン |
| 7 サンプルID | 8 サンプルの測定項目 |
| 9 スペクトルの表示 | 10 測定項目、予測値、参照値の表示 |
| 11 注記領域の拡大 | 12 バーコード |
| 13 注記 | 14 [測定の詳細] ボタン |
| 15 [メタデータの編集] ボタン | 16 [検量線モデルに追加] ボタン |
| 17 順番 | |

青のバー：サンプルが検量線モデルに追加されました
紫のバー：サンプルに参照値インジケーターがあります
参照：

- 6.11章「メタデータの編集（サンプルID、順番、注記）」、83ページ
- 6.12章「参照値の入力」、84ページ
- 6.13章「検量線モデルを作成または更新するAutoCalの実行」、86ページ
- 6.14.1章「測定データのエクスポート」、88ページ
- 6.15章「レポートの作成」、92ページ

拡張ビュー

拡張ビューでは、サンプルID、順番、アプリケーション名を完全に表示できます。

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

- ▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。
- ▶  ボタンをタップします。
- ⇒ 拡張ビューが開きます。

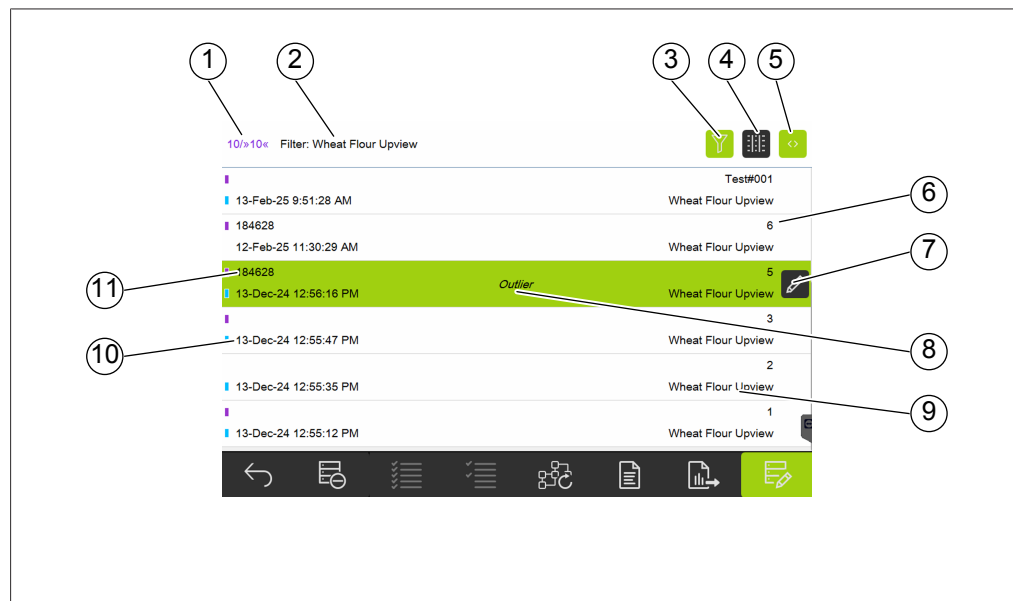


図 13: 拡張ビュー

- | | |
|--|---------------|
| 1 表示されたサンプル数/合計サンプル数
(適用されたフィルターに対して) | 2 適用されたフィルター |
| 3 [フィルター] ボタン | 4 [予測を表示] ボタン |
| 5 [拡張ビューを閉じる] ボタン | 6 サンプルID |
| 7 編集がアクティブな場合の [メタデータの編集] ボタン | 8 注記 |
| 9 アプリケーション名 | 10 タイムスタンプ |
| 11 順番 | |

拡張ビューで予測を表示

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

- ▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。
- ▶  ボタンをタップします。
- ⇒ 拡張ビューが開きます。
- ▶  ボタンをタップします。
- ⇒ 拡張ビューに、各サンプルの最初の予測値が表示されます。



図 14: 拡張ビュー

- | | | | |
|----|--|----|-------------|
| 1 | 表示されたサンプル数/合計サンプル数
(適用されたフィルターに対して) | 2 | 適用されたフィルター |
| 3 | [フィルター] ボタン | 4 | [予測を表示] ボタン |
| 5 | [拡張ビューを閉じる] ボタン | 6 | サンプルID |
| 7 | [測定の詳細] ボタン、 編集 がアクティブでないとき | 8 | 注記 |
| 9 | アプリケーション名 | 10 | タイムスタンプ |
| 11 | 順番 | | |

フィルターの選択

フィルターを使用すると、特定の基準を満たすサンプルに絞り込むことができます。

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ [フィルター] ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能なフィルターを含むダイアログボックスが表示されます。

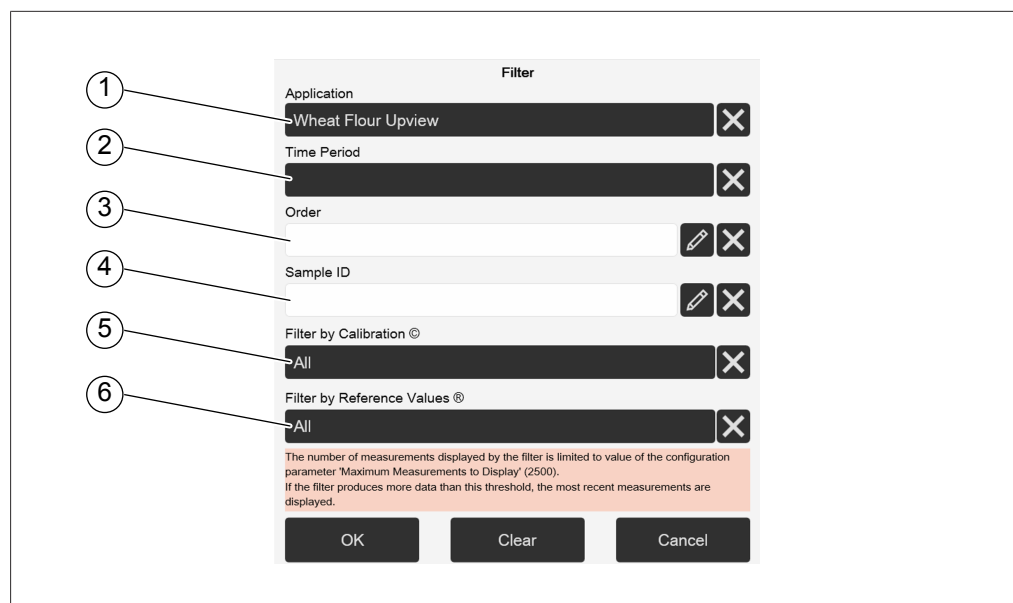


図 15: ダイアログボックスフィルター

- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------|
| 1 | アプリケーション | 2 | 期間（カスタムも可） |
| 3 | 順番 | 4 | サンプルID |
| 5 | 検量線モデルに追加する/しない | 6 | 参照値を使用する/しない |

- ▶ 要件に応じてフィルター設定を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 画面にフィルターされた測定値が表示されます。

フィルターの選択解除

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ **[フィルター]** ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能なフィルターを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 特定のフィルターの**[X]**ボタンまたは**[クリア]**ボタンをタップして、すべてのフィルターを削除します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 画面に使用可能な測定値がすべて表示されます。

測定の詳細を表示

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ サンプルを選択します。

- ▶  ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、参照値や残差（使用可能な場合）を含む予測値の詳細を示すボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

スクロール機能の使用

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ サンプルリスト内の別の場所までスクロールします。
- ▶ サンプルの1つを長押しします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
 - ⇒ **[履歴]**メニューが選択した場所に移動します。

6.3.3 アプリケーションメニュー

[アプリケーション]メニューでは、アプリケーションを作成、編集、および選択できます。

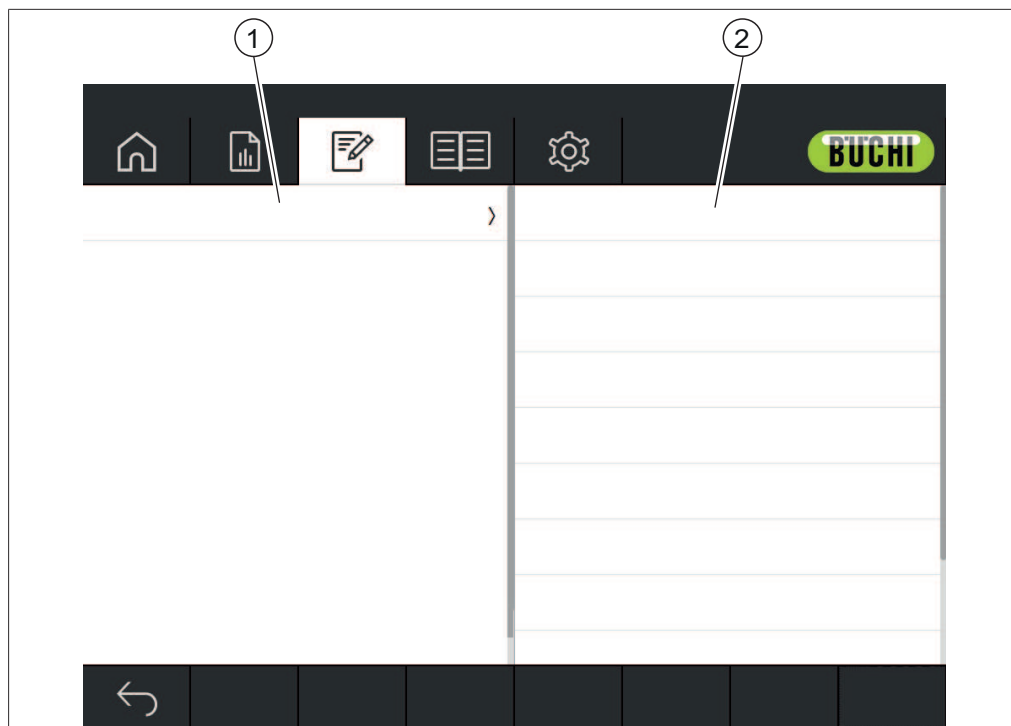


図 16: アプリケーションメニュー

- 1 使用可能なアプリケーションまたはプロパティのリストを表示
2 使用可能な設定のリストを表示

参照：

6.6章 「アプリケーションの編集」、55ページ

6.7章 「アプリケーションの削除」、62ページ

6.8章 「プロパティの編集」、62ページ

6.9章 「プロパティの削除」、79ページ

6.14.2章 「アプリケーションデータのインポート」、91ページ

6.14.3章 「アプリケーションデータのエクスポート」、91ページ

6.3.4 ツールメニュー

ツールメニューには、保守およびアプリケーション設定のためのさまざまなツールがあります。

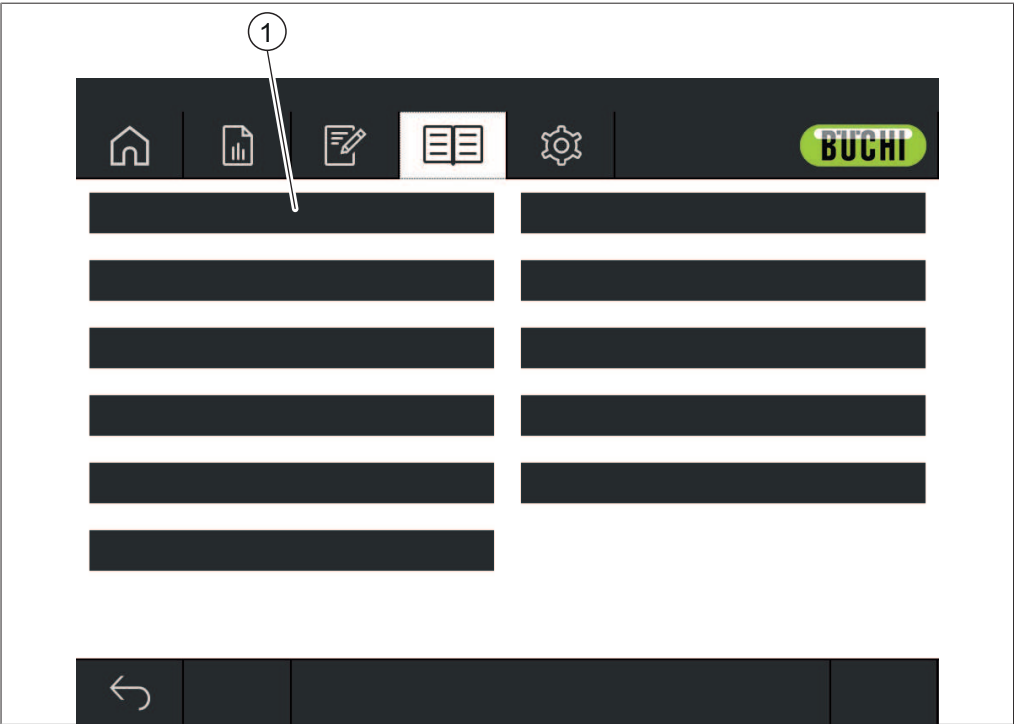


図 17: ツールメニュー

1 ツール

以下のツールが使用可能です。

対応	オプション	説明
[NIRWise ログ]	ビュー	操作中に発生したメッセージの一覧を含むダイアログが表示されます。 (すべてのユーザー)
[NIRWise データの バックアップ]	手順	データバックアップを実行します。 (管理者のみ) 7.6章「データのバックアップの実行」、108ページを参照してください。
[拡張システム試験]	手順	さまざまなシステム試験を実施します。 (管理者のみ) 7.5.2章「包括的なシステム試験の実行」、108ページを参照してください。 7.5.3章「高度なシステム試験の実行」、108ページを参照してください。
[BCVの試験]	手順	ベースライン補正試験を実行します。 (管理者のみ) 7.5.1章「ベースライン補正ベクトル試験の実行」、107ページを参照してください。
[ランプ交換の確認]	リセット	7.2.3章「ランプ交換の確認」、103ページを参照してください。 (管理者のみ)

対応	オプション	説明
[ライセンス申請]	手順	ライセンスの申請を参照してください。 (管理者のみ)
[TeamViewerサポート]	オープンプログラム	リモートサポート用の TeamViewer ソフトウェアが起動します。 (管理者のみ)
[バックアップのリストア]	手順	► BUCHIカスタマーサービスにご連絡ください。
[データベースのクリーンアップ]	手順	7.8章 「データベースのクリーンアップ」、110ページを参照してください。 (管理者のみ)
[クリーニングモード]	手順	7.9章 「ディスプレイの清掃」、111ページを参照してください。 (すべてのユーザー)
[運用カウンタ]	表示/手順	表示されるデータはシステム構成によって異なります。 総稼働時間/NIR稼働時間/ランプ上側表示/リファレンス上側表示/システム温度/回転時間/VIS稼働時間/ランプ下側表示/リファレンス下側表示/システム湿度 (管理者のみ)
[拡張システム試験履歴]	ビュー	実行された試験に関する詳細な情報を含むダイアログが表示されます。 (管理者のみ)
[BCVの検量]	手順	5.6.4章 「ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正」、25ページを参照してください。 (管理者のみ)
[外部参照データのインポート]	手順	5.6.5章 「リファレンスデータのインポート」、28ページを参照してください。
[ライセンスのインポート]	手順	5.6.2章 「ライセンスのインポート」、24ページを参照してください。 (管理者のみ)
[データファイルのコピー]		C:\ProgramData\Buchi\NIRWiseディレクトリ以下のすべてのファイルを選択可能な場所にコピーします。
[出荷時の設定]		► BUCHIカスタマーサービスにご連絡ください。

6.4 ステータスバー

ステータスバーには、装置のステータスが表示されます。
以下のステータスがあります。

ステータスバーの表示

表示	状態
分光計の安定化中	残り時間を示します。
測定準備完了	機器の測定準備が整いました。
テンパリング中	暖機中です。 ステータスバーに、装置の目標温度と現在温度が示されます。

表示	状態
構成中...	本機が起動します。 アプリケーションを読み込んでいます。
測定中...	測定を実行しています。
露光時間調整中...	装置の初期化
BCV校正中...	ベースライン補正ベクトルを校正します。
初期化中...	装置の初期化
ダークリファレンス測定中...	内部ダークリファレンスを測定します。
エラー	エラーが発生しました。 8章「故障かな？と思ったら」、112ページを参照してください。
拡張システム試験	拡張システム試験アクションが有効です。装置はアクションを待っています。
予備調整中...	装置の初期化
標準システム試験実行中...	標準システム試験を実行します。
システム試験実行中...	内部試験の実行中です。
設定準備完了	- アプリケーションが選択されていません。 - 現在のアプリケーションの測定オプションのベースライン補正が定義されていません。
ホワイトリファレンス測定中...	装置の初期化
ランプの予備加熱	ランプを加熱しています。ステータスバーに残り時間が表示されます。
面照射設定：BCV検量ステータス	選択した照射モードと測定オプションに対するBCV検量がありません。5.6.4章「ベースライン補正ベクトル（BCV）の校正」、25ページを参照してください。

ステータスバー上の記号

シンボルマーク	状態
	現在のユーザーは管理者としてログオンしています ソフトウェアは管理者モードになっています。
	現在のユーザーは測定者としてログオンしています。 ソフトウェアは測定者モードになっています。
	警告が発生しました。 [NIRWise ログ] を確認してください。 6.3.4章「ツールメニュー」、52ページを参照。

6.5 管理者モードへのログイン

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアはオペレータモードになっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**[ツール]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーで**[ログイン]**機能をタップします。
- ⇒ 画面に利用可能なユーザーを含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ **[管理者]**をタップします。
- ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。

- ▶ パスワードを入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
 - ⇒ ステータスバーに管理者アイコンが表示されます。

6.6 アプリケーションの編集



備考

アプリケーションは、管理者モードでのみ編集できます。

6.6.1 新しいアプリケーションの作成

アプリケーションを作成するには、2つの方法があります。

- 既存のアプリケーションをコピーする
章「既存のアプリケーションをコピーして新しいアプリケーションを作成する」、55ページを参照。
- 新しいアプリケーションを作成する
章「新しいアプリケーションの作成」、55ページを参照。

新しいアプリケーションの作成

手順：

ナビゲーションパス

→



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある**[追加]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 新しいアプリケーションが作成されます。

既存のアプリケーションをコピーして新しいアプリケーションを作成する

手順：

ナビゲーションパス

→



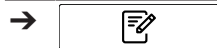
条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ コピーするアプリケーションをタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある**[コピー]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、コピーされたアプリケーションの測定項目が緑で強調表示されたダイアログが表示されます。
- ▶ コピーしない測定項目をタップします。
 - ⇒ 無効にした測定項目は白で強調表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 新しいアプリケーションが作成されます。

6.6.2 アプリケーションの別名の変更

別名機能を使用すると、事前に定義したアプリケーションにローカル名を付けることができます。
手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ **[別名]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの別名を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 別名が保存されます。

6.6.3 アプリケーションの照射モードの変更

装置の構成に応じて、次の照射モードを使用できます。

ビュー	説明
下面	アプリケーションは下面照射ランプを使用します。 放射線はサンプルの下側からサンプルカップを通して照射され、収集されます。
上面	アプリケーションは上面照射ランプを使用します。 放射線はサンプルの上面に照射され、そこから収集されます。放射線はサンプルカップとは相互作用しません。

手順：

ナビゲーションパス



条件：

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ **[照射モード]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。

6.6.4 アプリケーションの測定モードの変更

測定オプションの設定に応じて測定モードを選択します。6.6.5章「アプリケーションの測定オプションの変更」、58ページを参照してください。

次の測定モードを利用できます。

モード	説明
拡散反射	アプリケーションは、反射モードで測定を実行します。 拡散反射率測定モードは、固体および粉末サンプルの測定に使用します。
透過反射 (下面照射装置のみ)	アプリケーションは、透過反射モードで測定を実行します。 透過反射率モードは、液体とゲルの測定に使用します。 透過反射率モードでは、透過反射カバーを使用する必要があります。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ [測定モード]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 値が保存されます。

6.6.5 アプリケーションの測定オプションの変更

ベースライン補正ベクトル (BCV) を使用すると、例えばサンプル容器がスペクトル測定に及ぼす影響を補正するために、さまざまな測定オプションモードを定義できます。次の測定オプションモードを利用できます。

モード	説明
デフォルト	ベースライン補正のデフォルト設定を適用します。
新規	個別のベースライン補正を検量します。5.6.4章 「ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正」、 25ページを参照してください。
個別のベースライン補正	個別の検量済みベースライン補正。

手順:

ナビゲーションパス



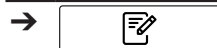
条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ [測定オプション]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 値が保存されます。

6.6.6 アプリケーションの説明の入力

手順：

ナビゲーションパス



条件：

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ [説明]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの説明を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 説明が保存されます。

6.6.7 アプリケーションの回転設定の変更

アプリケーションには、測定中にサンプルを回転させるかどうかを選択するオプションがあります。次の設定を使用できます。

モード	説明
はい	測定中、サンプルトレイが回転します。
いいえ	測定中、サンプルトレイが回転しません。

手順：

ナビゲーションパス



条件：

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ [回転]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。

▶ **[OK]**ボタンをタップします。

⇒ ダイアログが閉じます。

⇒ 値が保存されます。

6.6.8 アプリケーションの測定時間の変更

デフォルトの測定時間（15秒）では、サンプルが1回転するのに必要な時間です。測定時間が短いと、サンプルを1回転させることができません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。

▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。

▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。

⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。

▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。

⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。

▶ **[測定期間]**アクションをタップします。

⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。

▶ 値を数字入力フィールドに入力します。

▶ **[OK]**ボタンをタップします。

⇒ ダイアログが閉じます。

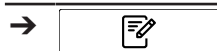
⇒ 測定期間の値が保存されます。

6.6.9 アプリケーションの標準操作手順（SOP）の入力

各アプリケーションには、オプションの標準業務手順（SOP）が関連付けられています。標準業務手順（SOP）には、測定時にユーザーが順守する手順が示されています。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。

▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。

▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。

⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。

▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。

⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。

▶ **[SOP]**アクションをタップします。

⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。

▶ オペレーターがアプリケーションを実行するのに必要な手順を入力します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。

⇒ ダイアログが閉じます。

⇒ 説明が保存されます。

6.6.10 アプリケーションの選択可否の変更

操作中にユーザーがアプリケーションを選択できるかどうかを変更します。

次のモードが利用可能です。

モード	説明
はい	アプリケーションを選択できます。
いいえ	アプリケーションを選択できません。

手順：

ナビゲーションパス

→



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。

- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。

⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。

- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。

⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。

- ▶ **[選択可能]**アクションをタップします。

⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。

- ▶ 値を選択します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。

⇒ ダイアログが閉じます。

⇒ 値が保存されます。

6.7 アプリケーションの削除



備考

次の手順でアプリケーションが完全に削除されます。削除されたアプリケーションを復元することはできません。

アプリケーションを削除するには2つのオプションがあります。

ダイアログ上のオプション

[はい]

- アプリケーションと関連するすべてのデータを削除します。
 - 検量線ファイルとデータファイルを削除します。
 - アプリケーションを選択できなくなります。
 - 測定データを削除します。
 - 運用記録を削除します。
 - アプリケーションで記録されたサンプルデータをすべて削除します。

[いいえ]

- アプリケーションを削除しますが、関連データは保持します。
 - 検量線ファイルとデータファイルを削除します。
 - アプリケーションを選択できなくなります。
 - 測定データは使用可能で、エクスポートできます。
 - 運用記録は保持されます。
 - アプリケーションで記録されたサンプルデータは、すべて引き続き利用できます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。

▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。

▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。

⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。

▶ 削除するアプリケーションの名前をタップします。

⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。

▶ ファンクションバーにある[削除]機能をタップします。

▶ 削除しても良いか確認します。

⇒ 画面に2つの削除モードを含むダイアログが表示されます。

▶ 削除モードを選択します。

6.8 プロパティの編集



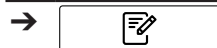
備考

プロパティは、管理者モードでのみ編集できます。

6.8.1 新しいプロパティの作成

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 使用可能な測定項目を1つタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ 機能バーにある[追加]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 測定項目の名前を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 新しい測定項目が作成されます。

6.8.2 プロパティの名前の変更



備考

一度使用したプロパティの名前を変更することはできません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [名前]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 測定項目の名前を入力します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 新しい名前が保存されます。

6.8.3 プロパティの別名の変更

別名機能を使用すると、事前に定義した測定項目にローカル名を付けることができます。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[別名]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 測定項目の別名を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 別名が保存されます。

6.8.4 プロパティの表示順の変更

並び順は、アプリケーション内に複数の測定項目が存在する場合に、その測定項目が表示される位置を定義します。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。

- ▶ **[並び順]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 並び順の値が保存されます。

6.8.5 プロパティの予測内容の変更

予測内容の設定は、測定項目のその他の設定可能性に影響を与えます。
次の設定を使用できます。

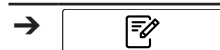
予測内容	説明	使用可能な予測設定
[検量線モデル]	割り当てられた検量線モデルを使用して、スペクトルからパラメータ値を予測します。 検量線モデルはケモメトリックモデルを使用します。	小数点以下の桁数については6.8.15章「プロパティの小数位の変更」、74ページを参照してください。
		単位。6.8.16章「プロパティの単位の変更」、74ページを参照してください。
		初期波長範囲。6.8.6章「初期波長範囲の変更（検量線モデルのみ）」、68ページを参照してください。
		事後予測値。6.8.7章「予測内容の変更（検量線モデルのみ）」、68ページを参照してください。
		傾き。6.8.18章「プロパティの傾きの変更」、75ページを参照してください。
		バイアス。6.8.17章「プロパティのバイアスの変更」、75ページを参照してください。
		マハラノビス。6.8.19章「プロパティのマハラノビスの変更（検量線モデルのみ）」、76ページを参照してください。
		目標値。6.8.20章「プロパティの目標値の変更」、77ページを参照してください。
		最小許容値。6.8.24章「プロパティの最小許容値の変更」、79ページを参照してください。
		最大許容値。6.8.23章「プロパティの最大許容値の変更」、78ページを参照してください。
		最小下限。6.8.22章「プロパティの最小下限の変更」、78ページを参照してください。
		最大上限。6.8.21章「プロパティの最大上限の変更」、77ページを参照してください。

予測内容	説明	使用可能な予測設定
[計算項目値]	使用すると、他の測定項目から数学的に計算される測定項目が定義されます。例：乾物量 = 100 - 水分	小数点以下の桁数については6.8.15章「プロパティの小数位の変更」、74ページを参照してください。 単位。6.8.16章「プロパティの単位の変更」、74ページを参照してください。 計算式。6.8.10章「計算式の変更（計算項目値のみ）」、71ページを参照してください。 傾き。6.8.18章「プロパティの傾きの変更」、75ページを参照してください。 バイアス。6.8.17章「プロパティのバイアスの変更」、75ページを参照してください。 目標値。6.8.20章「プロパティの目標値の変更」、77ページを参照してください。 最小許容値。6.8.24章「プロパティの最小許容値の変更」、79ページを参照してください。 最大許容値。6.8.23章「プロパティの最大許容値の変更」、78ページを参照してください。 最小下限。6.8.22章「プロパティの最小下限の変更」、78ページを参照してください。 最大上限。6.8.21章「プロパティの最大上限の変更」、77ページを参照してください。

予測内容	説明	使用可能な予測設定
[色]	可視光検知器を搭載したモデルのみ対象。 サンプルの色を測定します。	小数点以下の桁数については6.8.15章「プロパティの小数位の変更」、74ページを参照してください。 標準観察者。6.8.11章「標準観察者の変更（色のみ）」、72ページを参照してください。 イルミナント。6.8.12章「標準イルミナントの変更（色のみ）」、72ページを参照してください。 表色系。6.8.13章「表色系の変更（色のみ）」、73ページを参照してください。 属性。6.8.14章「属性の変更（色のみ）」、73ページを参照してください。 傾き。6.8.18章「プロパティの傾きの変更」、75ページを参照してください。 バイアス。6.8.17章「プロパティのバイアスの変更」、75ページを参照してください。 目標値。6.8.20章「プロパティの目標値の変更」、77ページを参照してください。 最小許容値。6.8.24章「プロパティの最小許容値の変更」、79ページを参照してください。 最大許容値。6.8.23章「プロパティの最大許容値の変更」、78ページを参照してください。 最小下限。6.8.22章「プロパティの最小下限の変更」、78ページを参照してください。 最大上限。6.8.21章「プロパティの最大上限の変更」、77ページを参照してください。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。

- ▶ **[予測内容]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
- ▶ 必要に応じて、使用可能な予測設定を編集します。

6.8.6 初期波長範囲の変更（検量線モデルのみ）

初期検量に使用する波長範囲を選択します。



備考

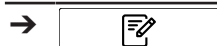
プロジェクトファイルの変更により、ここで選択した内容が上書きされます。

次の設定を使用できます。

波長タイプ	説明
[NIRのみ]	NIR波長範囲のみ（900～1,700 nm）
[VISのみ]	VIS波長範囲のみ（400～900 nm）
[VIS NIR]	NIRおよびVIS波長範囲（400～1,700 nm）

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[初期波長範囲]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 初期波長範囲の値が保存されます。

6.8.7 予測内容の変更（検量線モデルのみ）

次の設定を使用できます。

事後予測タイプ	説明
[予測値]	ケモメトリックモデルによって予測された値を計算します。

事後予測タイプ	説明
[残差]	モデルの適用可能性を示す指標です。 残差とは、前処理済みのサンプルとモデル再構成スペクトルの差のRMS値です。
[マハラノビス距離]	マハラノビス距離に基づいて値を計算します。
[検量線換算項目]	検量時のパラメータ値を、異なる水分含有量で得られた値に変換します。 この事後予測タイプを実行するには、水分測定項目が必要です。 参照： 6.8.8章 「検量線使用値の変更（検量線モデルのみ）」、69ページ 6.8.9章 「換算表示値の変更（検量線モデルのみ）」、70ページ

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [事後予測値]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 値が保存されます。

6.8.8 検量線使用値の変更（検量線モデルのみ）

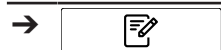
次の設定を使用できます。

タイプ	説明
[乾物換算]	この測定項目値は、サンプル中の水分の存在を無視して算出されます。 水分の影響分は計算から除外されます。
[水分xx%]	この測定項目値は、含水率xx%を前提として算出されます。 水分量は、総重量に対する割合（パーセンテージ）で表されます。

タイプ	説明
[現物]	この測定項目値は、サンプル中の水分の存在を含めて算出されます。 水分の影響分も計算に含まれます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54 ページを参照してください。
- ☒ 事後予測内容の[検量線換算項目]が選択されています。
 - ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
 - ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
 - ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
 - ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
 - ▶ [検量線使用値]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ 値を選択します。
 - ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 検量線使用値が保存されます。

6.8.9 換算表示値の変更（検量線モデルのみ）

次の設定を使用できます。

タイプ	説明
[乾物換算]	この測定項目値は、サンプル中の水分の存在を無視して算出されます。 水分の影響分は計算から除外されます。
[水分xx%]	この測定項目値は、含水率xx%を前提として算出されます。 水分量は、総重量に対する割合（パーセンテージ）で表されます。
[現物]	この測定項目値は、サンプル中の水分の存在を含めて算出されます。 水分の影響分も計算に含まれます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ☑ 事後予測内容の**[検量線換算項目]**が選択されています。
 - ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
 - ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
 - ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
 - ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
 - ▶ **[表示基準]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ 値を選択します。
 - ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 表示基準の値が保存されます。

6.8.10 計算式の変更（計算項目値のみ）

予測の計算式です。

計算式の入力方法については、10.3章「計算式入力ルール」、117ページを参照してください。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[計算式]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 計算式を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 計算式が保存されます。

6.8.11 標準観察者の変更（色のみ）

国際規格CIE 1931/CIE 1964に対応した設定が使用可能です。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[標準観察者]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 標準観察者タイプの値が保存されます。

6.8.12 標準イルミナントの変更（色のみ）

国際規格ISO 11664-2:2007/CIE S 014-2:2006に対応した設定が使用可能です。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[イルミナント]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ イルミナントの値が保存されます。

6.8.13 表色系の変更（色のみ）

次の設定を使用できます。

タイプ	説明
[Lab]	L*a*b色空間における指標を計算します。
[LCh]	L*C*h色空間における指標を計算します。
[XYZ]	XYZ色空間における値を計算します。

手順：

ナビゲーションパス



条件：

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[表色系]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数値入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 表色系の値が保存されます。

6.8.14 属性の変更（色のみ）

使用可能なオプションは、6.8.13章「表色系の変更（色のみ）」、73ページで選択した指標によって異なります。

手順：

ナビゲーションパス



条件：

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。

- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
- ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
- ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[属性]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 値が保存されます。
- ⇒ 属性の値が保存されます。

6.8.15 プロパティの小数位の変更

特定の測定項目に表示される小数点以下の桁数。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
- ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
- ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
- ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[小数点以下の桁数]**アクションをタップします。
- ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 小数点以下の桁数の値が保存されます。

6.8.16 プロパティの単位の変更



備考

特殊文字

- ▶ 英数字入力ボックスの**[シフト]**ボタンをタップします。
- ⇒ 英数字入力ボックスに、使用可能な特殊文字が表示されます。

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [単位]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 測定項目の単位を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 単位が保存されます。

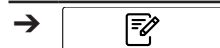
6.8.17 プロパティのバイアスの変更

バイアスとは定数値のことです。

この値は、予測値と参照値の間の一定の偏差を補正するために、予測結果に加算されます。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [バイアス]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数値入力フィールドに入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ バイアスの値が保存されます。

6.8.18 プロパティの傾きの変更

傾きとは、測定結果と参照値との間の比例的な系統差異を補正するために使用される係数です。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [傾き]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 傾きの値が保存されます。

6.8.19 プロパティのマハラノビスの変更（検量線モデルのみ）

マハラノビス距離は、測定されたスペクトルと検量に使用されたデータセットとの間のスペクトル類似性を示す尺度です。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [マハラノビス]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ マハラノビスの値が保存されます。

6.8.20 プロパティの目標値の変更

許容範囲を判断する基準となる目標値を設定します。
手順：

ナビゲーションパス



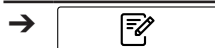
条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [目標値]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数値入力フィールドに入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 目標値が保存されます。

6.8.21 プロパティの最大上限の変更

測定項目の上限を設定します。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に[編集]機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ [最大上限]アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数値入力フィールドに入力します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 限界の値が保存されます。

6.8.22 プロパティの最小下限の変更

測定項目の下限を設定します。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[最小下限]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 限界の値が保存されます。

6.8.23 プロパティの最大許容値の変更

許容範囲とは、目標値からの許容される差のことです。

対象に対する最大限界を設定します。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。

- ▶ **[最大許容値]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 許容範囲の値が保存されます。

6.8.24 プロパティの最小許容値の変更

許容範囲とは、目標値からの許容される差のことです。

対象に対する最少限界を設定します。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ 画面に**測定項目**ビューが表示されます。
- ▶ **[最小許容値]**アクションをタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 許容範囲の値が保存されます。

6.9 プロパティの削除

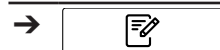


備考

測定に使用したプロパティを削除することはできません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**[編集]**機能が緑で強調表示されます。

- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 削除する測定項目の名前をタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ ファンクションバーにある[削除]機能をタップします。
- ▶ 確認の質問に[はい]を選択して、アクションを確認します。
 - ⇒ 測定項目が削除されます。

6.10 測定の実行



備考

バーコード/サンプルID/順番/注記

サンプルのバーコード、サンプルID、順番、注記は測定プロセス中にいつでも編集できます。

- ▶ 章「サンプルIDの挿入」、43ページを参照
- ▶ 章「バーコードの挿入」、44ページを参照
- ▶ 章「注記の挿入」、44ページを参照
- ▶ 章「順番の挿入」、45ページを参照
- ▶ 章「サンプルIDの自動増分接頭辞の挿入」、44ページを参照



備考

試験サンプルを生産に戻すと、汚染の原因になることがあります。

- ▶ 試験サンプルを生産に戻さないでください。



備考

汚染または欠陥のある測定オプション

汚染または欠陥のある測定オプションは、測定エラーの原因になります。

- ▶ 欠陥のある測定オプションを使用しないでください。
- ▶ 測定オプションが清潔であることを確認してください。



備考

サンプルの入れ過ぎによる正しくない測定結果

容器にサンプルを入れ過ぎるとサンプルがこぼれることがあります。このサンプルが測定ウィンドウに堆積して、正しくない測定結果を生じることがあります。

- ▶ サンプルを容器に入れ過ぎないでください。

6.10.1 装置の準備

所要時間：最大30分

条件:

- ☒ すべての試運転作業が完了しました。5章「設置」、21ページを参照してください。
- ☒ すべての試運転操作は完了しています。

- ▶ **電源**スイッチをタップします。
 - ⇒ 本システムが起動します。
 - ⇒ 画面にステータスバーが黄色で強調表示されます。
 - ⇒ 起動フェーズが完了すると、ステータスバーが黄色から黒に変わります。

6.10.2 単一測定を開始

ナビゲーションパス

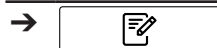


条件:

- ☒ 本装置の準備ができています。6.10.1章「装置の準備」、80ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 使用するアプリケーションをタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ ファンクションバーにある**[選択]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面が**[スタート]**メニューに切り替わります。
- ▶ アプリケーション要件に従って、サンプルを測定オプションエリアに配置します。
- ▶ **[コントロール]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 本装置が測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに**測定中**ステータスが表示されます。

6.10.3 繰り返し測定を開始

ナビゲーションパス



条件:

- ☒ 本装置の準備ができています。6.10.1章「装置の準備」、80ページを参照してください。
- ☒ 繰り返し測定が定義されています。5.6.8章「測定繰り返し回数の編集」、30ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 使用するアプリケーションをタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ ファンクションバーにある**[選択]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面が**[スタート]**メニューに切り替わります。
 - ⇒ **[コントロール]**ボタンの上にあるカウンターに「0/X」と表示されます（Xは設定で定義された繰り返し回数）。
- ▶ アプリケーション要件に従って、サンプルを測定オプションエリアに配置します。

- ▶ **[コントロール]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 本装置が最初の繰り返し測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに**測定中**ステータスが表示されます。
 - ⇒ 最初の繰り返し測定が完了すると、カウンターに「1/X」と表示され、**[コントロール]**ボタンが青色に点灯します。
 - ⇒ ホーム画面に、次の繰り返し測定のためにサンプルを準備するよう促すメッセージが表示されます。
- ▶ 繰り返し要件に従ってサンプルを準備します。
- ▶ **[コントロール]**ボタンをタップします。
- ▶ すべての繰り返し測定が完了するまで繰り返します。

6.10.4 測定の終了

- 条件:
- ☑ コントロールボタンに、測定が完了したステータスの1つが表示されます。
 - ▶ コントロールボタンの記号は、サンプルがどの仕様カテゴリに該当するかを示しています。
- 以下の仕様カテゴリがあります。

仕様カテゴリ	説明については、章「コントロールボタン」、42ページを参照	説明については、6.10.5章「測定結果の詳細とスペクトル」、82ページを参照
仕様内	x	x
許容範囲	x	x
限界	x	x

- ▶ サンプルが該当する仕様に従って続行します。

仕様内	許容範囲	限界
▶ ファンクションバーにある [保存] 機能をタップします。 ⇒ 測定値が保存されます。	▶ コントロールボタンをタップします。 ▶ ファンクションバーにある [保存] 機能をタップします。 ⇒ 測定値が保存されます。	▶ コントロールボタンをタップします。 ▶ ファンクションバーにある [保存] 機能をタップします。 ⇒ 測定値が保存されます。

6.10.5 測定結果の詳細とスペクトル



- 備考**
- 測定結果ボタンは、サンプルが仕様内か仕様外か、異常値か、または予測が利用できないかを示します。

測定結果	説明
xx.x %	● 試験対象サンプルは仕様書に記載されています。
N/A	● 検量線モデルがありません。
Outlier	● マハラノビス異常値
! xx %	● 予測値が検量範囲外です。

測定結果	説明
	予測値が設定限界の範囲外です。
	予測値が許容範囲外です。

ナビゲーションパス

→  → [開始]

条件:

☒ 測定が完了すると、予測が**ホーム**画面に表示されます。

▶ [結果]ボタンの1つをタップします。

⇒ 画面に、現在の測定に関する詳細情報と、同じアプリケーションで測定された直近7回のサンプルの予測結果が表示されます。

▶ [スペクトル]タブを選択します。

⇒ 画面に、今回の測定結果と、同じアプリケーションで測定された直近7回のサンプルに対応するスペクトルが表示されます。

▶ [閉じる]機能をタップします。

⇒ ダイアログボックスが閉じます。

▶ **ホーム**画面で[スペクトル]機能をタップします。

⇒ **ホーム**画面に、現在の測定結果のスペクトルが表示されます。繰り返し測定を行った場合、各繰り返し測定のスペクトルと平均値が表示されます。



備考

ウィンドウサイズを調整するには、[展開/折りたたみ]ボタンを使用します。



備考

スペクトルビューを開いた状態で測定結果を保存すると、次の測定では**結果**ビューではなく、同じ**スペクトル**ビューが表示されます。

▶ **結果**ビューに戻るには、**結果**をタップします。

6.10.6 装置のシャットダウン

ナビゲーションパス

→ 

▶ ナビゲーションパスに従って、メニュー[スタート]に移動します。

▶ 機能バーの[スイッチオフ]機能をタップします。

▶ 確認の質問に対して はいで応答します。

⇒ 本機がシャットダウンされます。

6.11 メタデータの編集（サンプルID、順番、注記）



備考

順番フィールドと注記フィールドのラベルは、5.6.7章「順番フィールドと注記フィールドのラベルを変更」、29ページに従った設定に応じて異なる場合があります。

この操作を実行すると、データベースと履歴メニューの値が変更されます。



備考

新しい値は、変更後に作成されたレポートとエクスポートに適用されます。変更前に作成されたレポートとエクスポートは再作成されません。

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ サンプルを選択します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
- ▶  ボタンをタップします。
- ▶ 値を変更するメタデータフィールドを選択し、そのボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 新しい値を入力します。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップします。
- ▶ 必要に応じて、他のメタデータフィールドについてもこの手順を繰り返します。
- ▶ **[保存]** ボタンをタップします。

6.12 参照値の入力

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：



[編集]

選択された項目の編集を可能にします。



[検量線モデルに追加]

選択した項目を検量線モデルに追加します。

条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☑ サンプルは本装置で測定され、適切に固有のラベルを貼付されています。
- ☑ サンプルの参照値は一次的方法で決定されています。
- ▶ ナビゲーションパスで **[履歴]** メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ 画面に **[編集]** 機能が緑で強調表示されます。
- ▶ 編集する測定の名前をタップします。
 - ⇒ サンプルは緑で強調表示され、測定の詳細と測定項目が画面の右側に表示されます。
- ▶ 編集する測定項目をタップします。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 参照値を入力します。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップします。
 - ⇒ 参照値が設定されます。

- ▶ 必要に応じて、他のパラメータの参照値を入力します。
- ▶ **[検量線モデルに追加]**ボタンをタップします。
 - ⇒ そのボタンは緑で強調表示され、AutoCalの測定が有効になります。
- ▶ 検量線に使用するすべてのサンプルについて、これらの手順を繰り返します。

6.12.1 Excelテンプレートでの手分析値のインポート

ナビゲーションパス

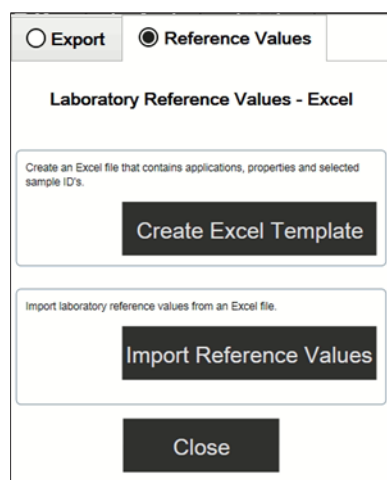
→  → **[履歴]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：

 **[エクスポート]** 選択されているデータをエクスポートできます。

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☒ サンプルは本装置で測定され、適切に固有のラベルを貼付されています。
- ☒ サンプルの参照値は一次的方法で決定されています。
- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ 関連する測定値（新しい参照値が利用可能な測定値）を選択します。複数のサンプルを選択する方法については、『**Quick Guide 近赤外分析計 ProxiMate™ – Exports and reports**』を参照してください。
- ▶ 機能バーにある**[エクスポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面にダイアログが表示されます。



- ▶ **参照値**タブを選択します。
- ▶ **[Excelテンプレートの作成]**ボタンを選択します。
 - ⇒ 画面にWindowsメニューが表示されます。
- ▶ ニーズに合わせて保存場所を選択します。テンプレートファイルの名前を変更しないでください。
- ▶ **[保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、テンプレートが作成され、保存されたことを示す確認メッセージが表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ テンプレートがエクスポートされます。

- ▶ そのテンプレートはPC上の信頼できる場所に移してください。そうしないと、保護モードで開かれてしまいます。
- ▶ Excelでそのテンプレートを開き、参照値を入力します。
- ▶ 参照値が入ったテンプレートを保存します。
- ▶ テンプレートをUSBまたは本装置にコピーします。
- ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[インポート]**機能をタップします。
- ⇒ 画面にダイアログが表示されます。
- ▶ **参照値**タブを選択します。
- ▶ **[参照値のインポート]**アクションを選択します。
- ⇒ 画面に**ファイルを開く**ダイアログが表示されます。
- ▶ インポートするファイルを選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に、インポートされた参照値の数を示す確認メッセージが表示されます。
- ⇒ 参照値がインポートされ、関連するサンプルの測定の詳細に表示されます。

6.13 検量線モデルを作成または更新するAutoCalの実行

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

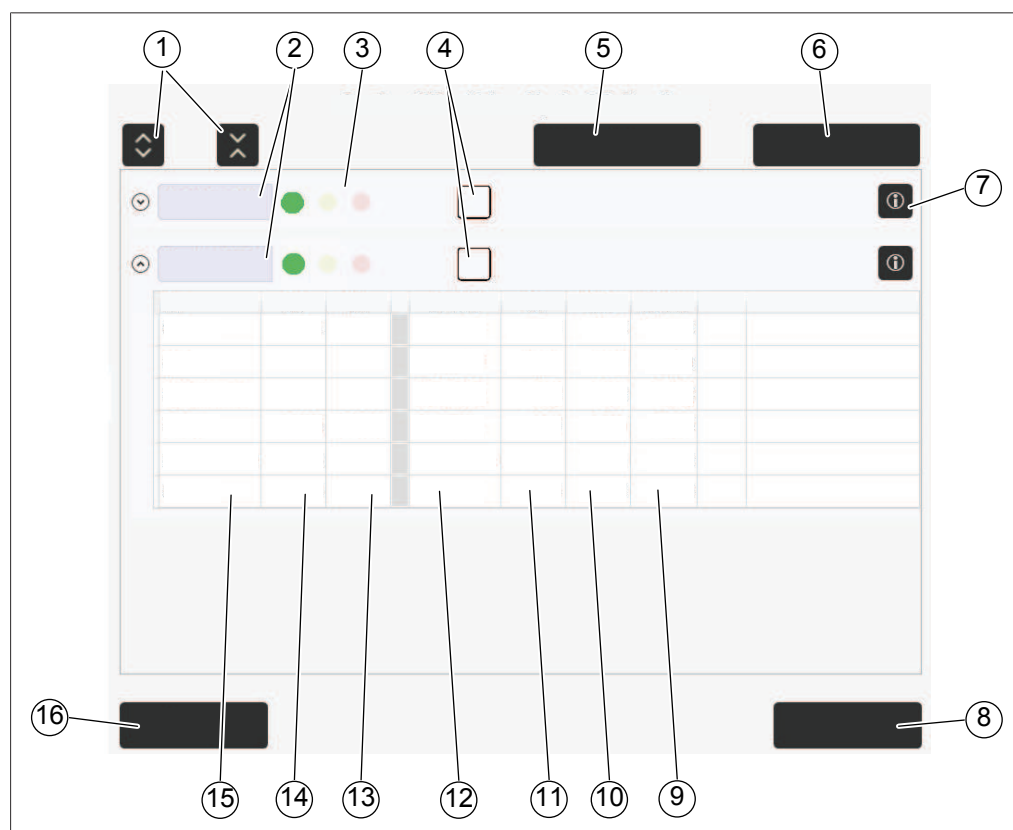
このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[AutoCal]	AutoCalを実行します。
---	------------------	----------------

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ☒ 選択したアプリケーションとパラメータについて、**[履歴]**メニューに3つ以上のサンプルの参照値が設定されており、これらの参照値の3つ以上が異なっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ 検量線に追加する測定値の1つに移動します。
- ▶ 測定をタップします。
- ⇒ サンプルは緑で強調表示され、測定の詳細と測定項目が右側に表示されます。
- ▶ 機能バーにある**[AutoCal]**をタップします。
- ⇒ 画面に、選択したアプリケーションのすべての測定項目が一覧表示されたダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 更新しない測定項目はすべて選択を解除します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ 画面に**検量線を更新中**ダイアログが表示されます。
- ⇒ 検量プロセスが完了すると、**検量線を承認**ダイアログが表示されます。
- ⇒ トラフィックライトは、設定で定義された品質基準に基づいて新しい検量線モデルが改善されたか、安定しているか、劣っているかを示します（5.6.17章「検量比較の基準の変更」、35ページを参照）。
- ▶ **[情報]**ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に比較の詳細を含むダイアログボックスが表示されます。

- ▶ **[OK]**をタップして比較の詳細を閉じます。
- ▶ **検量線を承認**で**[展開]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に古い検量線モデルと新しい検量線モデルの比較表が表示されます。
- ▶ 検量線モデルを更新する測定項目を選択します。
- ▶ 新しい検量線モデルを**[承認]**または**[破棄]**します。
 - ⇒ 新しい検量線モデルが承認されると、古い検量線モデルは置き換えられ、検量線フォルダの履歴フォルダに保存されます。
 - ⇒ 新しい検量線モデルが拒否されると、古い検量線モデルがそのまま使用されます。



- | | | | |
|----|----------------------------------|----|----------------------------|
| 1 | すべての表を展開/折りたたむ | 2 | 測定項目 |
| 3 | トラフィックライト | 4 | 個別の検量線を選択する |
| 5 | 緑色のトラフィックライトが表示されているすべての検量線を選択する | 6 | すべての検量線を選択する |
| 7 | 検量線比較の詳細 | 8 | [破棄] ボタン |
| 9 | 参照値（使用可能な場合） | 10 | 新しい検量線に基づく予測 |
| 11 | 現在の検量線に基づく予測（使用可能な場合） | 12 | 直近n個（デフォルトは6）の測定値のID |
| 13 | 新しい検量線モデルの統計パラメータ | 14 | 現在の検量線モデルの統計パラメータ（使用可能な場合） |
| 15 | 統計パラメータのタイプ | 16 | [承認] ボタン |

6.13.1 検量線要約を開く統計情報の確認

ナビゲーションパス

→  → **[開始]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：



[選択]

マークされたアプリケーションを選択します。

条件:

☒ 1つ以上のアプリケーションがNIRWiseにアップロードされています。

- ▶ ナビゲーションパスで[開始]メニューに移動します。
- ▶ [アプリケーション]ボタンをタップします。
 - ⇒ [アプリケーション]メニューが開かれます。
- ▶ 目的のアプリケーションをタップします。
 - ⇒ そのアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある[選択]ボタンで確認します。
 - ⇒ メニューは[開始]メニューに戻り、選択したアプリケーションの測定項目が右下に表示されます。
- ▶ 目的の測定項目をタップします。
 - ⇒ 画面にこの測定項目の検量線要約を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ [OK]で確認してダイアログボックスを閉じます。

6.14 インポートとエクスポート

6.14.1 測定データのエクスポート

エクスポートの作成

NIRWise内のエクスポートの種類：

- tsv：ケモメトリクスソフトウェアNIRWise Plusで使用する形式。測定値、参照値およびスペクトルデータを含みます。
- jdx：一般的なエクスポート形式。
- csv：測定値およびオプションとしてメタデータならびに参照値および／またはスペクトルデータを含みます。

単一サンプルのエクスポート作成

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用されている機能バーの記号：

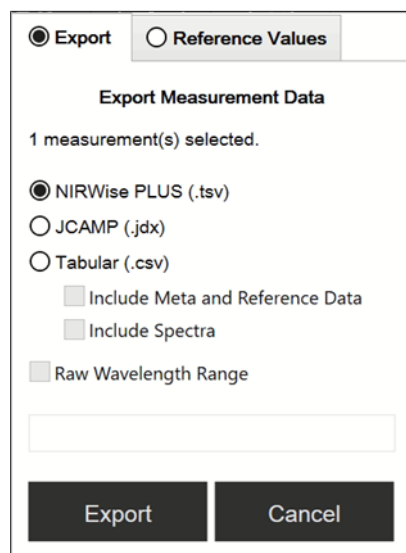


[エクスポート]

選択されているデータをエクスポートできます。

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☒ **履歴**メニューで、1つ以上の測定が利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートする測定に移動してタップします。
 - ⇒ 画面にその測定が緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある[エクスポート]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**エクスポート**メニューが表示されます。



- ▶ エクスポートするファイル形式を選択します。
- ▶ **[エクスポート]** ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。

同じアプリケーションの複数サンプルのエクスポート作成

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[エクスポート]	選択されているデータをエクスポートできます。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☒ **履歴**メニューで、同じアプリケーションから2つ以上の測定が利用可能になっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
- ▶ エクスポートする測定の1つに移動してタップします。
- ⇒ 画面にその測定が緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある**[複数選択]** ボタンをタップします。
- ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]** ボタンが緑で強調表示されます。
- ▶ エクスポートする他のサンプルをすべてタップします。
- ⇒ 選択したサンプルがすべて緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある**[エクスポート]** 機能をタップします。
- ⇒ 画面に**エクスポート**メニューが表示されます。
- ▶ エクスポートするファイル形式を選択します。
- ▶ **[エクスポート]** ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。

同じアプリケーションのサンプルすべてのエクスポート作成

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[エクスポート]	選択されているデータをエクスポートできます。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。
	[すべて選択]	リスト内のすべての測定を選択します。
注意事項 複数選択が有効な場合のみ使用できます。		

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☒ **履歴**メニューで、同じアプリケーションから2つ以上の測定が利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートする測定の1つに移動してタップします。
 - ⇒ 画面にその測定が緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある**[複数選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]**ボタンが緑で強調表示されます。
 - ▶ **[すべて選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ アプリケーションのサンプルがすべて緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある**[エクスポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に**エクスポート**メニューが表示されます。
 - ▶ エクスポートするファイル形式を選択します。
 - ▶ **[エクスポート]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。

作成したデータファイルへのアクセス

ナビゲーションパス

→  → [ツール]

このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[Windowsを表示]	表示がWindows® Surfaceに切り替わります。
---	--------------	------------------------------

- ▶ ナビゲーションパスで**[ツール]**メニューに移動します。
- ▶ **[Windowsを表示]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面が組み込まれたコンピュータのデスクトップに切り替わります。
- ▶ デスクトップ上の**NirWiseData**フォルダを開きます。
- ▶ **エクスポート**サブフォルダに移動してから、**データ**に移動します。
- ▶ アプリケーション名とエクスポート日時のタイムスタンプが付いたエクスポートファイルを見つけます。

6.14.2 アプリケーションデータのインポート

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーにある[インポート]機能をタップします。
 - ⇒ 画面にフォルダを選択するためのダイアログが表示されます。
- ▶ インポートするアプリケーションの保存フォルダに移動します。
- ▶ アプリケーションを選択します。
 - ⇒ 画面にインポートするアプリケーションの測定項目を含むダイアログが表示されます。すべての測定項目が緑で強調表示されます。
- ▶ インポートしない測定項目をタップします。
 - ⇒ 無効にした測定項目は白で強調表示されます。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ アプリケーションがインポートされます。

6.14.3 アプリケーションデータのエクスポート

このエクスポート機能を使用すると、（ライセンスのない）アプリケーションを別の装置でできるようにします。



備考

保存フォルダの場所は固定されています。10.2章「ファイルの説明とフォルダの場所」、116ページを参照。

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ エクスポートするアプリケーションをタップします。
 - ⇒ 画面にアプリケーションが緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある[エクスポート]機能をタップします。
 - ⇒ 画面にエクスポートするアプリケーションの測定項目を含むダイアログが表示されます。すべての測定項目が緑で強調表示されます。
- ▶ エクスポートしない測定項目をタップします。
 - ⇒ 無効にした測定項目は白で強調表示されます。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ アプリケーションがエクスポートされます。

6.15 レポートの作成

レポートには以下の情報が含まれます：

- 会社情報
- 装置の説明
- 測定の要約（複数サンプルの場合）
- 測定の説明
- 測定結果
- サンプルのスペクトル

6.15.1 単一サンプルのレポート作成

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。

条件:

- ☒ **履歴**メニューで、1つ以上の測定が利用可能になっています。
- ☒ プリンターが設定されています。
- ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
- ▶ エクスポートする測定の1つに移動してタップします。
 - ⇒ 画面にその測定が緑で強調表示されます。
- ▶ 機能バーにある**[レポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面にPDFレポートが表示されます。
- ▶ レポートを印刷するには、**[印刷]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に印刷の進行状況を含むダイアログが表示されます。
- ▶ レポートをPDFファイルとしてエクスポートするには、**[PDFで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。
- ▶ レポートをExcelファイルとしてエクスポートするには、**[Excelで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。

6.15.2 同じアプリケーションの複数サンプルのレポート作成

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。

条件:

- ☒ ソフトウェアは、レポートを閲覧したりエクスポートするためのオペレータモードになっています。
- ☒ ソフトウェアは、レポートを印刷するための管理者モードになっています。
- ☒ **履歴**メニューで、同じアプリケーションから2つ以上の測定が利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートする測定の1つに移動してタップします。
 - ⇒ 画面にその測定が緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある**[複数選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]**ボタンが緑で強調表示されます。
 - ▶ エクスポートする他のサンプルをすべてタップします。
 - ⇒ 選択したサンプルがすべて緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある**[レポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面にPDFレポートが表示されます。
 - ▶ レポートを印刷するには、**[印刷]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に印刷の進行状況を含むダイアログが表示されます。
 - ▶ レポートをPDFファイルとしてエクスポートするには、**[PDFで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ レポートをExcelファイルとしてエクスポートするには、**[Excelで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。

6.15.3 同じアプリケーションのサンプルすべてのレポート作成

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

このセクションで使用されている機能バーの記号：

	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[複数選択]	測定 of 複数選択を有効にします。
	[すべて選択]	リスト内のすべての測定を選択します。 注意事項 複数選択が有効な場合のみ使用できます。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。

条件:

- ☒ ソフトウェアは、レポートを閲覧したりエクスポートするためのオペレータモードになっています。
- ☒ ソフトウェアは、レポートを印刷するための管理者モードになっています。
- ☒ **履歴**メニューで、同じアプリケーションから2つ以上の測定が利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートする測定 of 1つに移動してタップします。
 - ⇒ 画面にその測定が緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある**[複数選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]**ボタンが緑で強調表示されます。
 - ▶ **[すべて選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 同じアプリケーションのサンプルがすべて緑で強調表示されます。
 - ▶ 機能バーにある**[レポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面にPDFレポートが表示されます。
 - ▶ レポートを印刷するには、**[印刷]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に印刷の進行状況を含むダイアログが表示されます。
 - ▶ レポートをPDFファイルとしてエクスポートするには、**[PDFで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ レポートをExcelファイルとしてエクスポートするには、**[Excelで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポートが成功したことを確認するダイアログボックスが表示されます。

6.15.4 作成したデータファイルへのアクセス

ナビゲーションパス

→  → [ツール]

このセクションで使用されている機能バーの記号：



[Windowsを表示]

表示がWindows® Surfaceに切り替わります。

- ▶ ナビゲーションパスで[ツール]メニューに移動します。
- ▶ [Windowsを表示]ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面が組み込まれたコンピュータのデスクトップに切り替わります。
- ▶ デスクトップ上のNirWiseDataフォルダを開きます。
- ▶ **エクスポート**サブフォルダに移動してから、**データ**に移動します。
- ▶ アプリケーション名とエクスポート日時のタイムスタンプが付いたエクスポートファイルを見つけます。

7 クリーニングと保守作業



備考

- ▶ 本章に記載されている保守およびクリーニング作業のみを実施してください。
- ▶ 筐体を開ける保守やクリーニング作業は行わないでください。
- ▶ 適正な動作と製品保証を維持するため、ビュッヒの純正スペアパーツを使用してください。
- ▶ 本章に記載されている保守およびクリーニング作業を適切に実施すると、装置寿命を延ばすことができます。

7.1 定期保守作業



備考

特殊な洗浄プロセスが必要な場合は、BÜCHIカスタマーサービスに連絡してください。

www.buchi.com/contact

構成部品	作業	頻度
サンプル容器	▶ サンプル容器を湿らせた布で拭きます。 ▶ 汚れがひどい場合： • 中性洗剤を使用します • きれいな水ですすぎます • 糸くずの出ない布で拭いて乾かします	毎日
下面照射ガラス	▶ ガラスを湿らせた布で拭きます。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。	毎日
上面照射ガラス	▶ ガラスを湿らせた布で拭きます。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。	毎日
測定オプション	▶ 測定オプションエリアを湿らせた布で拭きます。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。	毎日
データ	▶ データのバックアップを実行します。7.6章「データのバックアップの実行」、108ページを参照してください。	毎週
ケース	▶ ケースを湿らせた布で拭きます。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。	毎週
冷却フィン	▶ 圧縮空気または掃除機を使用して、冷却フィンから埃や異物を取り除きます。	毎週
コントロールパネル	▶ ベースライン補正ベクトル試験を実行します。7.5.1章「ベースライン補正ベクトル試験の実行」、107ページを参照してください。	毎週
ディスプレイ	▶ ディスプレイを湿らせた布で拭きます。7.9章「ディスプレイの清掃」、111ページを参照してください。	毎週
サンプルトレイのスライダー	▶ サンプルトレイのスライダーに過度の摩耗がないことを確認します。	毎月
コントロールパネル	▶ 高度なシステム試験を実行します。7.5.3章「高度なシステム試験の実行」、108ページを参照してください。	毎月

構成部品	作業	頻度
乾燥剤カートリッジ	▶ 乾燥剤カートリッジの機能を確認します。7.3章「乾燥剤カートリッジの点検」、104ページを参照してください。 ▶ 必要に応じて、乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、106ページを参照してください。	毎年
コントロールパネル	▶ 包括的なシステム試験を実行します。7.5.2章「包括的なシステム試験の実行」、108ページを参照してください。	毎年

7.2 ランプの交換

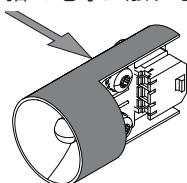


注意事項

破損したランプのリスク

電球または反射板に手で触れると、ランプが破損することがあります。

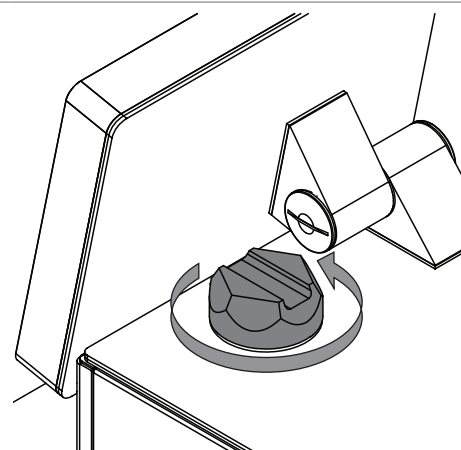
- ▶ 指で電球に触れないでください。



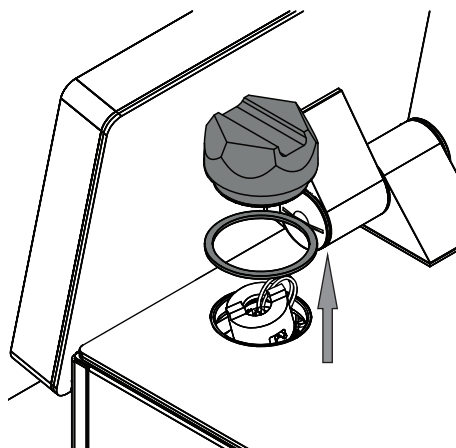
- ▶ 示されている部分でランプに触れてください。

7.2.1 上面照射ランプの交換

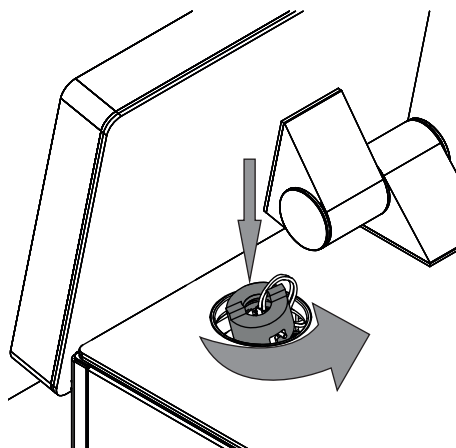
- ▶ 装置の電源を切ります。
- ▶ ランプが冷えるまで15分待ちます。
- ▶ 装置上部のカバー蓋を開きます。



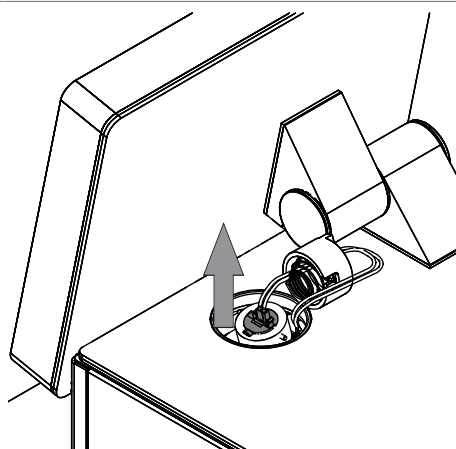
- ▶ シールとカバー蓋を取り外します。



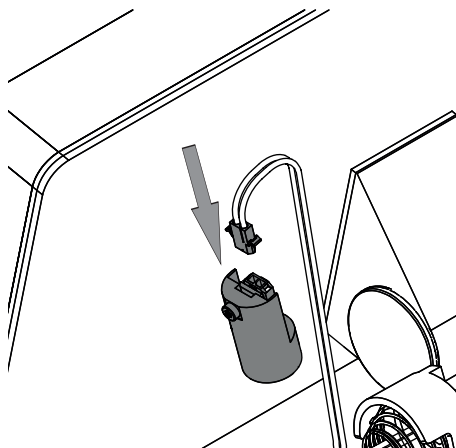
- ▶ フェルールを押します。
- ▶ フェルールを反時計回りに1/4回転します。



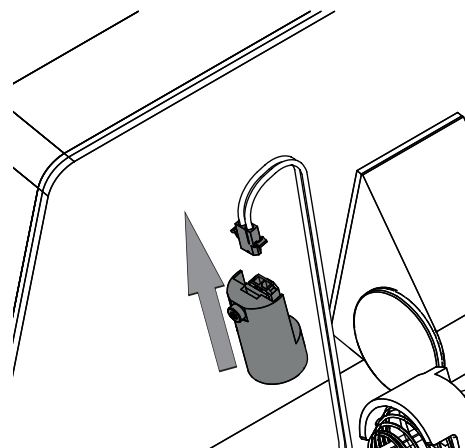
- ▶ 欠陥のあるランプをランプソケットから取り外します。



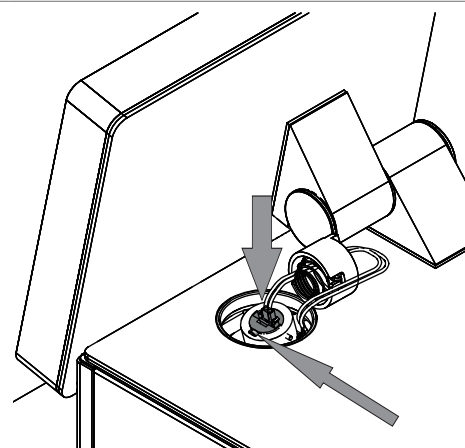
- ▶ 欠陥のあるランプを外します。



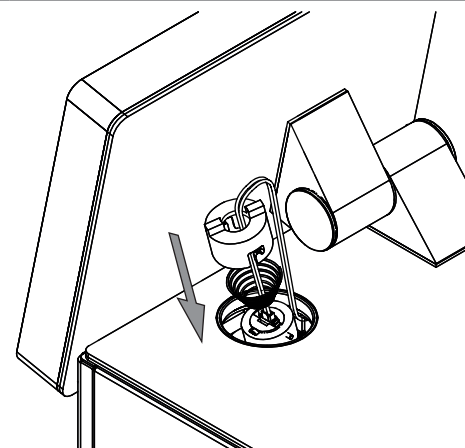
- ▶ 新しいランプを接続します。



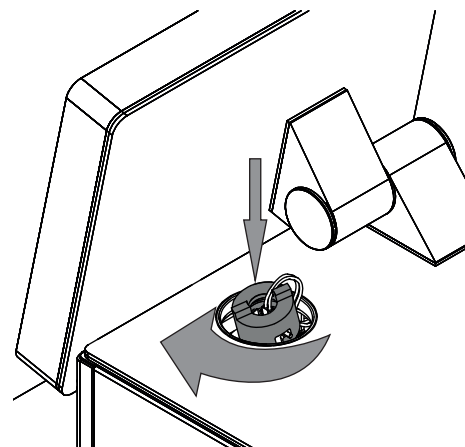
- ▶ 接続した新しいランプをランプソケットに差し込みます。
- ▶ 示されているねじがランプソケットの溝にあることを確認します。



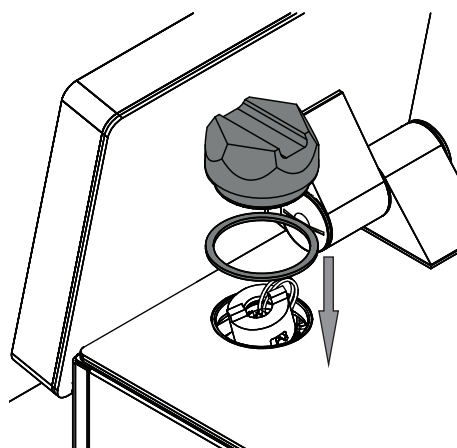
- ▶ フェルールとばねをランプソケットに押し込みます。



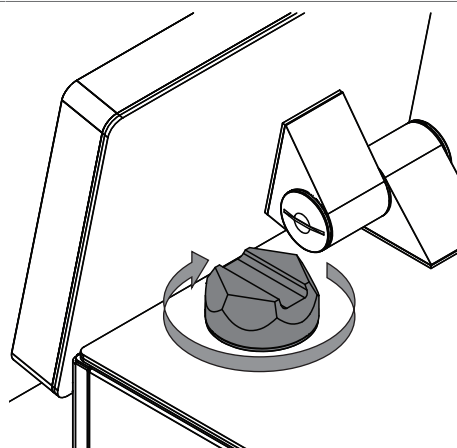
- ▶ フェルールを押します。
- ▶ フェルールを時計回りに1/4回転します。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に置きます。



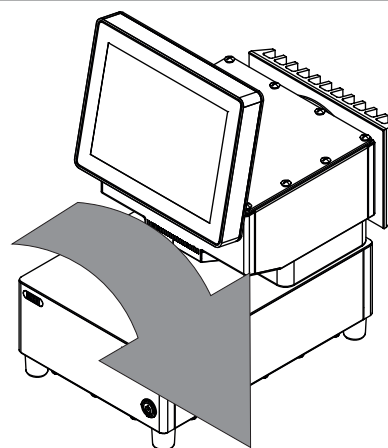
- ▶ カバー蓋を取り付けます。



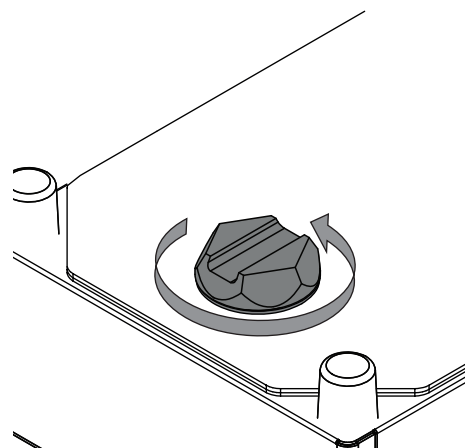
- ▶ 乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、106ページを参照。
- ▶ ランプ交換を確認します。7.2.3章「ランプ交換の確認」、103ページを参照。
- ▶ ベースライン補正ベクトル検量を実行します。5.6.4章「ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正」、25ページを参照してください。

7.2.2 下面照射ランプの交換

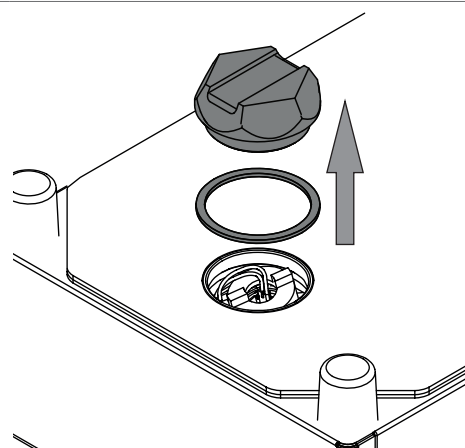
- ▶ 装置への電源供給を遮断します。
- ▶ ランプが冷えるまで15分間待ちます。
- ▶ 装置をひっくり返します。
- ▶ ランプ交換中に装置が転倒しないようにします。



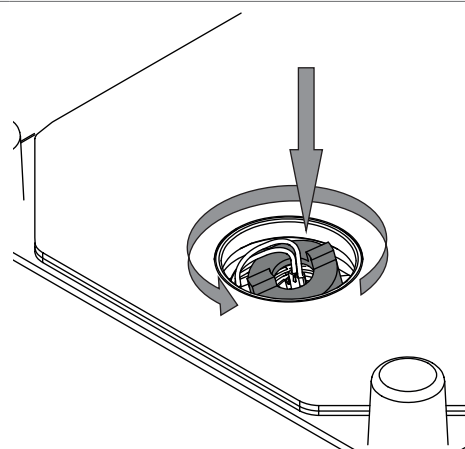
- ▶ 装置下部のカバー蓋を開きます。



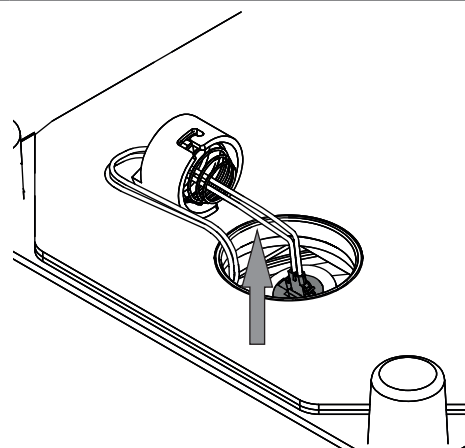
- ▶ シールとカバー蓋を取り外します。



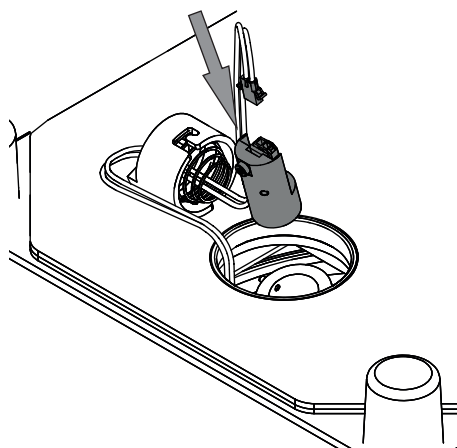
- ▶ フェルールを押します。
▶ フェルールを反時計回りに1/4回転します。



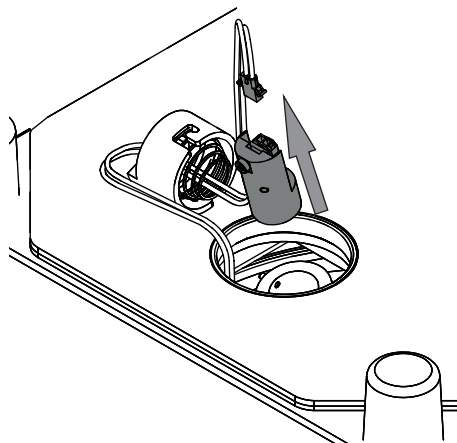
- ▶ 欠陥のあるランプをランプソケットから取り外します。



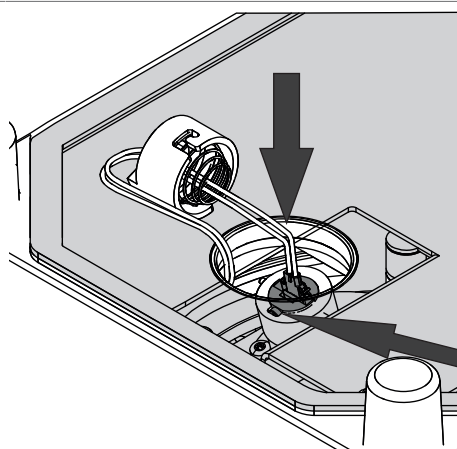
- ▶ 欠陥のあるランプを外します。



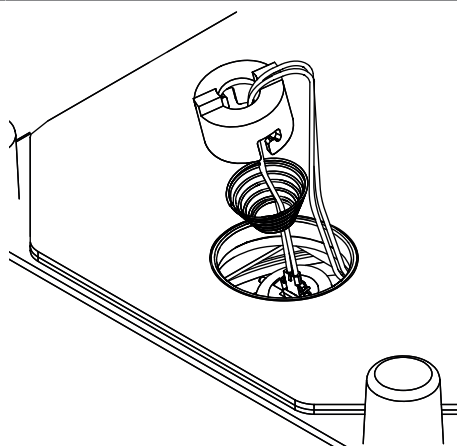
- ▶ 新しいランプを接続します。



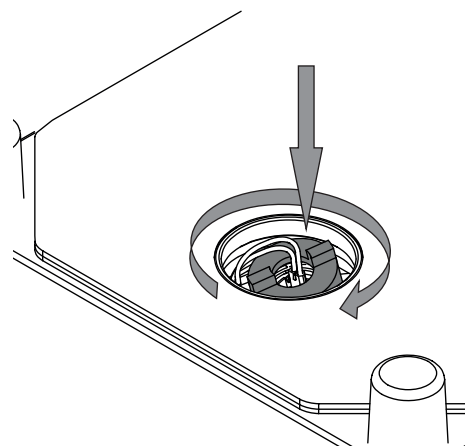
- ▶ 接続した新しいランプをランプソケットに差し込みます。
- ▶ 示されているねじがランプソケットの溝にあることを確認します。



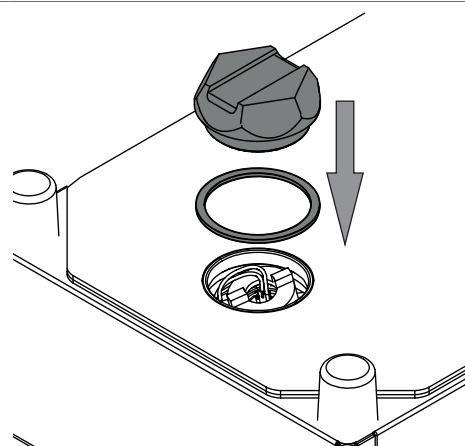
- ▶ フェールールとばねをランプソケットに押し込みます。



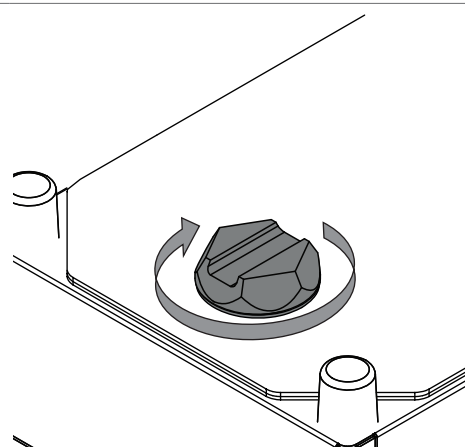
- ▶ フェルールを押します。
- ▶ フェルールを時計回りに1/4回転します。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に置きます。



- ▶ カバー蓋を取り付けます。



- ▶ 乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、106ページを参照。
- ▶ ランプ交換を確認します。7.2.3章「ランプ交換の確認」、103ページを参照。
- ▶ ベースライン補正ベクトル検量を実行します。5.6.4章「ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正」、25ページを参照してください。

7.2.3 ランプ交換の確認

ナビゲーションパス

→  → [ランプ交換の確認]

条件:

- ☒ ランプを交換しました。
- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ **電源**スイッチをタップします。
 - ⇒ 本システムが起動します。
 - ⇒ 画面にステータスバーが黄色で強調表示されます。
 - ⇒ 起動フェーズが完了すると、画面にステータスバーが黒で強調表示されます。
- ▶ ナビゲーションパスで**[ランプ交換の確認]**アクションに移動します。
- ▶ 交換したランプを選択します（下面照射ランプまたは上面照射ランプ）。
- ▶ 確認の質問に**OK**で応答します。

7.3 乾燥剤カートリッジの点検

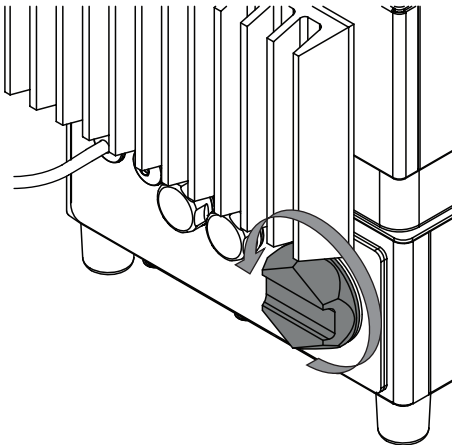


備考

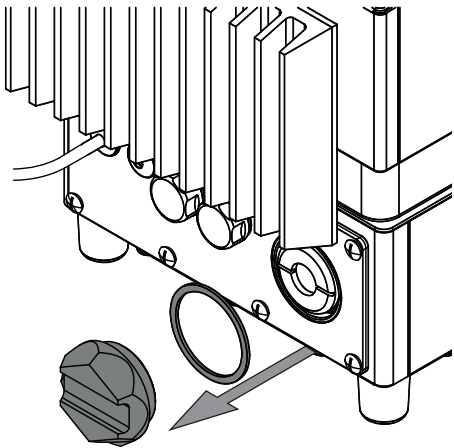
湿度が40%に達すると、乾燥剤カートリッジの色が変わります。

色	説明
ピンク	カートリッジの交換が必要です
青	カートリッジはまだ使用できます

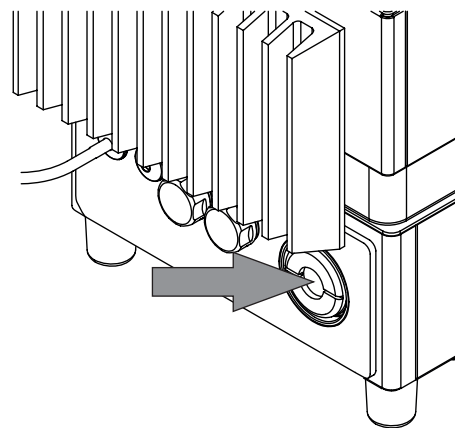
- ▶ 乾燥剤カートリッジのカバー蓋を開きます。



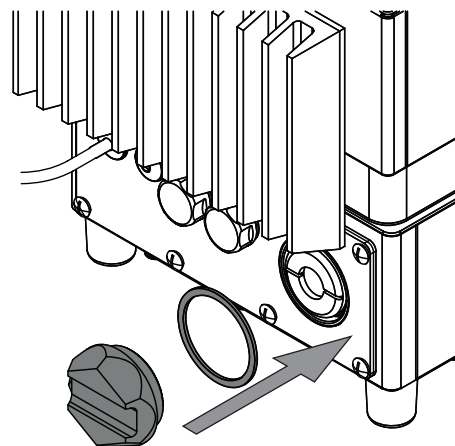
- ▶ カバー蓋とシールを取り外します。



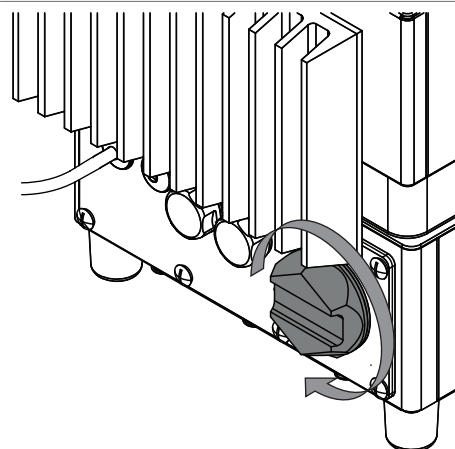
- ▶ 乾燥剤カートリッジの窓の色を確認します。
- ▶ 必要な場合は、乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、106ページを参照。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に付けます。

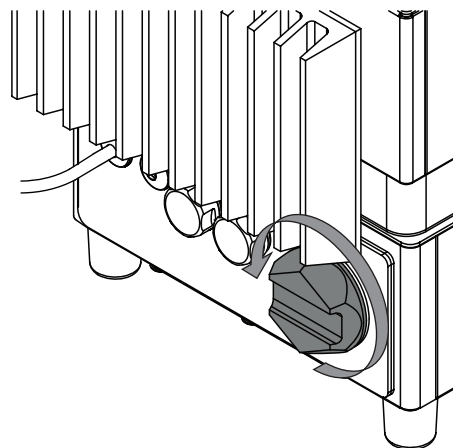


- ▶ カバー蓋を取り付けます。

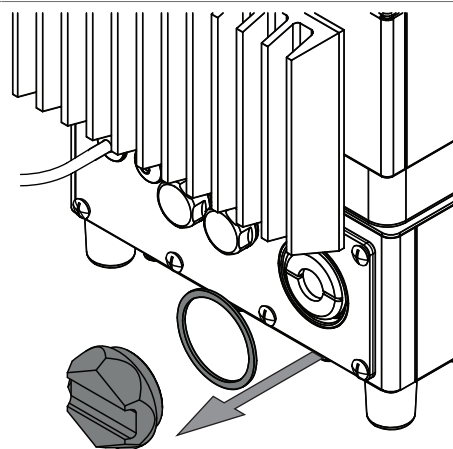


7.4 乾燥剤カートリッジの交換

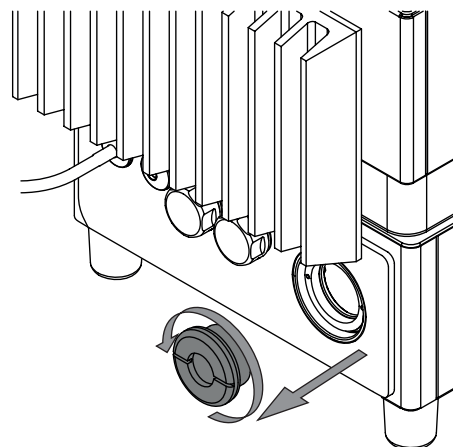
- ▶ 乾燥剤カートリッジのカバー蓋を開きます。



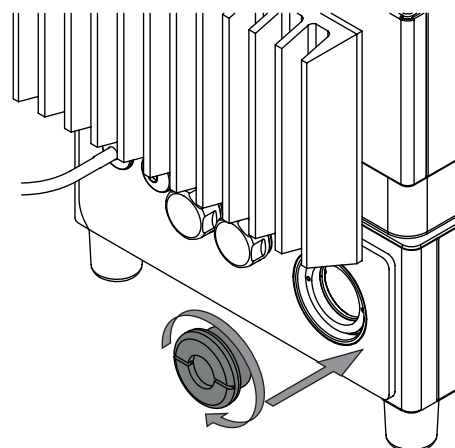
- ▶ カバー蓋とシールを取り外します。



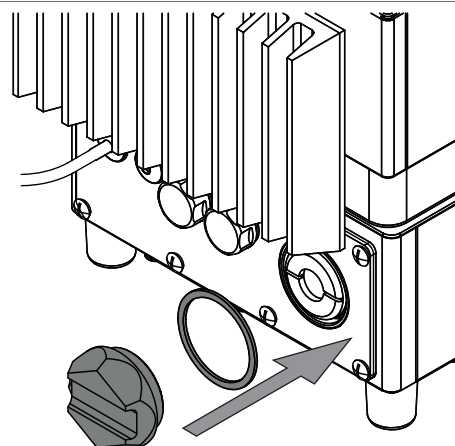
- ▶ 使用済みの乾燥剤カートリッジを取り外します。



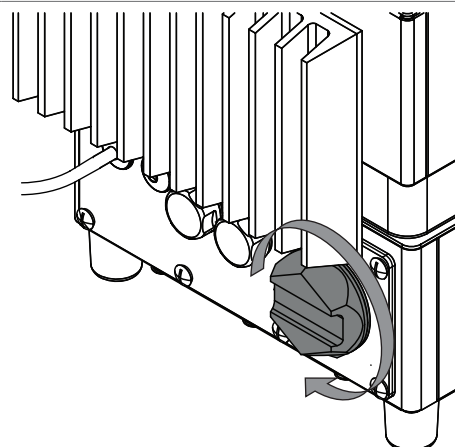
- ▶ 新しい乾燥剤カートリッジを装置に取り付けます。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に付けます。



- ▶ カバー蓋を取り付けます。



7.5 システム試験の実行

7.5.1 ベースライン補正ベクトル試験の実行

ナビゲーションパス

→  → [BCVテスト]

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで[BCVテスト]アクションに移動します。

⇒ 画面に**BCVテスト**ダイアログが表示されます。

- ▶ 試験する測定オプションの名前を選択します。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。
- ▶ 試験中は画面の指示に従います。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップして指示を確認します。
- ▶ テストが完了すると、ソフトウェアは結果をレポートに記録します。
 - ⇒ 画面にベースライン補正試験が完了したことが表示されます。

7.5.2 包括的なシステム試験の実行

ナビゲーションパス

→  → **[拡張システム試験]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ☒ すべての規格に関する外部参照データが読み込まれました。
- ☒ 装置テスト用標準キットを使用できます。
- ▶ ナビゲーションパスで**[拡張システム試験]**アクションに移動します。
 - ⇒ 画面に**拡張システム試験**ダイアログが表示されます。
- ▶ **[包括的なシステム試験]**チェックボックスをオンにします。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。
- ▶ 試験中は画面の指示に従います。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップして指示を確認します。
- ▶ テストが完了すると、ソフトウェアは結果をレポートに記録します。
 - ⇒ 画面に包括的なシステム試験が完了したことが表示されます。

7.5.3 高度なシステム試験の実行

ナビゲーションパス

→  → **[拡張システム試験]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、 54 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**[拡張システム試験]**アクションに移動します。
 - ⇒ 画面に**拡張システム試験**ダイアログが表示されます。
- ▶ **[高度なシステム試験]**チェックボックスをオンにします。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 本装置が試験を開始します。
- ▶ テストが完了すると、ソフトウェアは結果をレポートに記録します。
 - ⇒ 画面に高度なシステム試験が完了したことが表示されます。

7.6 データのバックアップの実行



備考

保存フォルダーの場所は固定されています。10.2章 「ファイルの説明とフォルダの場所」、 116ページを参照。

ナビゲーションパス

→  → [NIRWise データのバックアップ]

条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで[NIRWise データのバックアップ]アクションに移動します。
 - ⇒ 画面に保存可能な値を含むダイアログが表示されます。
- ▶ ニーズに合わせて値を選択します。
- ▶ [開始]ボタンをタップします。
 - ⇒ 選択したデータを含む.zipファイルが作成されます。
- ▶ データを外部データストアに保存します。

7.7 データバックアップの復元

7.7.1 ツールメニューを使用

ナビゲーションパス

→  → [バックアップのリストア]

条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで[バックアップのリストア]アクションに移動します。
 - ⇒ 画面にダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 復元プロセスを続行する場合は、[はい]ボタンをタップします。
 - ⇒ NIRWiseが閉じて、[ProxiMate データバックアップ復元]ダイアログが開きます。
- ▶ [ディレクトリを開く]ボタンをクリックして、バックアップファイルを選択します。
- ▶ 正しいバックアップファイルを選択します。
- ▶ [リストア]を押します。
- ▶ プロセスが完了するまで待ってから、NIRWiseを開きます。

7.7.2 ショートカットを使用

条件:

- ☑ NIRWiseアプリケーションが閉じています。
- ▶ コンピュータのデスクトップにある[バックアップのリストア]ショートカットに移動します。
- ▶ ダブルクリックして開きます。
 - ⇒ [ProxiMate データバックアップ復元]ダイアログが開きます。
- ▶ [ディレクトリを開く]ボタンをクリックして、バックアップファイルを選択します。
- ▶ 正しいバックアップファイルを選択します。
- ▶ [リストア]を押します。
- ▶ プロセスが完了するまで待ってから、NIRWiseを開きます。

7.8 データベースのクリーンアップ



備考

データベースのクリーンアップを使用する前に、現在のデータベースのバックアップを作成し、7.6章「データのバックアップの実行」、108ページを参照して安全な場所に保存します。



備考

参照値を含むサンプルは、この操作では削除されません。



備考

ディスクがいっぱいになると（使用されている場合、使用可能なディスク容量の90%に達すると）、機器の操作が制限されます。

- ▶ **[ツールビュー]**から**[データベースのクリーンアップ]**機能を使用して、古いデータをクリーンアップします。

使用可能なディスク領域の90%（45,000～48,999サンプル）、98%（49,000～49,899サンプル）、99.8%（49,900～49,999サンプル）が使用されると、NIRWiseは連続して警告を表示します。

データベースが50,000サンプルに達すると、次の警告が表示されます。ディスクが一杯です。システムの動作が遅くなる可能性があります。

- ▶ **[ツールビュー]**から**[データベースのクリーンアップ]**機能を使用して、古いデータをクリーンアップします。

ナビゲーションパス

→  → **[データベースのクリーンアップ]**

条件:

- ☒ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、54ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで**[データベースのクリーンアップ]**アクションに移動します。
- ▶ 画面に2つのオプションを含むダイアログボックスが表示されます。

7.8.1 パーセントで選択

- ▶ 削除するデータベースの量をパーセントで選択します。
- ▶ **[削除]**ボタンをタップします。

⇒ 選択した量のデータが、最も古いエントリから順番にデータベースから削除されます。

7.8.2 期間で選択

- ▶ **[期間別]**タブを選択します。

⇒ 画面に開始日と終了日を含むダイアログボックスが表示されます。開始日には、データベース内で最も古いエントリの日付が自動的に設定されます。

- ▶ ボタンをタップしてタイムスタンプを調整します。
- ▶ **[削除]**ボタンをタップします。

⇒ 選択した時間枠のデータがデータベースから削除されます。

7.9 ディスプレイの清掃

クリーニングモードでは、タッチスクリーンのタッチ機能がオフになります。

ナビゲーションパス

→  → [クリーニングモード]

- ▶ ナビゲーションパスで[クリーニングモード]アクションに移動します。
 - ⇒ ディスプレイのタッチ機能がロックされます。
 - ⇒ 画面に数値入力欄を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ ディスプレイを湿らせた布で拭きます。
- ▶ 表示されているセキュリティコードを入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ ディスプレイのタッチ機能がロック解除されます。

8 故障かな？と思ったら

8.1 トラブルシューティング

問題	考えられる原因	作業
サンプルキャリアが滑らかに回転しません。	測定エリアが汚れています。	▶ 測定エリアを中性洗剤で拭きます。 ▶ 測定エリアをきれいな水ですすぎます。 ▶ 測定エリアを糸くずの出ない布で拭き取ります。
不正確な結果	直射日光	▶ 直射日光が当たっていないことを確認します。
	サンプルカップがサンプルキャリア内の正しい位置にありません。	▶ サンプルカップがサンプルキャリア内の正しい位置にあることを確認します。
	サンプルカップが空です。	▶ 測定前にサンプルカップを満たします。
ディスプレイが黒い。	装置はスタンバイ状態です。	▶ ディスプレイをタップします。

8.2 エラーメッセージ

エラーコード	エラーメッセージ	解決方法
1000	未指定のエラー。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1001	装置との通信を確立できません。構成されたシリアルポートは{0}です。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1003	装置データを使用できないか、無効です。シリアル番号と装置オプションが設定されているかどうか確認します。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1004	'{0}' 照射のダークリファレンス最大値 ({1} cnt) は期待値 ({2}..{3} cnt) の範囲外です。	▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1005	ランプが故障しています	▶ ランプを交換してください。7.2章「ランプの交換」、97ページ「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。
1006	内部リファレンス'{0}'は正しく移動していない可能性があります。	▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1007	現在のシステム温度 ({0} °C) は、期待される範囲 ({1}..{2} °C) の範囲外です。	▶ 周辺温度が仕様を満たす場所に装置を移動してください。

エラーコード	エラーメッセージ	解決方法
1008	照射'{0}'についてのIWRレベルの調整が失敗しました (NirTargetSaturation = {1}、NirTargetExposureTime = {2} μs)。	▶ 光源ランプの動作を確認してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1009	ペルチェ温度 ({0} °C) は、期待される範囲 ({1}..{2} °C) の範囲外です。	▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1010	デバイスが指定されたタイムアウト{0} ms以内にコマンド'{1}'に応答しませんでした。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1011	内部ホワイトリファレンス信号が無効です。詳細については、ログファイルを参照してください。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1500	レポート'{0}'の生成時に未知のエラーが発生しました：{1}	▶ 装置を再起動します。 ▶ レポートの作成を再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1501	レポート'{0}'のエクスポート時に未知のエラーが発生しました：{1}	▶ 装置を再起動します。 ▶ レポートのエクスポートを再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
2500	NIRWiseデータのバックアップを作成できませんでした。エラー：'{0}'。	▶ 装置を再起動します。 ▶ データのバックアップを再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
2502	テストラン中に危機的エラーが発生しました。テストランはキャンセルされました。詳細については、ログファイルを参照してください。	▶ 装置を再起動します。 ▶ 検査を再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。

9 使用中止と廃棄

9.1 使用中止

- ▶ 本機のスイッチを切り、コンセントから抜きます。
- ▶ 本機から電源ケーブルを取り外します。

9.2 廃棄

本機の適切な廃棄については、オペレーターがその責任を負います。

- ▶ 本機の廃棄にあたっては、廃棄物処理に関する地域の規制や法的要件を遵守してください。
- ▶ 廃棄時には、使用した材料の法的規制を遵守してください。使用された材料については、3.7章「仕様」、18ページを参照するか、部品に記載された材料ラベルをご覧ください。

9.3 装置の返却

装置の返却前に、BÜCHI Labortechnik AGカスタマーサービスまでご連絡ください。

<https://www.buchi.com/support/contact>

10 付録

10.1 測定結果の詳細とスペクトル



備考

測定結果ボタンは、サンプルが仕様内か仕様外か、異常値か、または予測が利用できないかを示します。

測定結果	説明
XX.X %	試験対象サンプルは仕様書に記載されています。
N/A	検量線モデルがありません。
Outlier	マハラノビス異常値
! XX %	予測値が検量範囲外です。
XX.X %	予測値が設定限界の範囲外です。
XX.X %	予測値が許容範囲外です。

ナビゲーションパス

→ → [開始]

条件:

☒ 測定が完了すると、予測が**ホーム**画面に表示されます。

▶ [結果]ボタンの1つをタップします。

⇒ 画面に、現在の測定に関する詳細情報と、同じアプリケーションで測定された直近7回のサンプルの予測結果が表示されます。

▶ [スペクトル]タブを選択します。

⇒ 画面に、今回の測定結果と、同じアプリケーションで測定された直近7回のサンプルに対応するスペクトルが表示されます。

▶ [閉じる]機能をタップします。

⇒ ダイアログボックスが閉じます。

▶ **ホーム**画面で[スペクトル]機能をタップします。

⇒ **ホーム**画面に、現在の測定結果のスペクトルが表示されます。繰り返し測定を行った場合、各繰り返し測定のスペクトルと平均値が表示されます。



備考

ウィンドウサイズを調整するには、[展開/折りたたみ]ボタンを使用します。



備考

スペクトルビューを開いた状態で測定結果を保存すると、次の測定では**結果**ビューではなく、同じ**スペクトル**ビューが表示されます。

▶ **結果**ビューに戻るには、**結果**をタップします。

10.2 ファイルの説明とフォルダの場所



備考

エクスポートフォルダ、レポートフォルダ、NIRWiseBackupフォルダのデフォルトの保存場所は、Windowsのユーザー環境変数で変更できます。



備考

非表示のフォルダ

デフォルト設定では、次のフォルダの場所は非表示になっています。

- ▶ ソフトウェア **[Windows エクスプローラ]**を起動します。
- ▶ 次のナビゲーションパスを使用して、フォルダオプションに移動します：[表示] → [フォルダオプション] → [表示]
- ▶ **[隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する]**機能を有効にします。

説明	タイプ	フォルダ
バックアップファイル（デフォルトの保存場所）	.zip	C:\NIRWiseBackup
検量線ファイル	.cal	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\C alibrations
検量線用データファイル	.tsv	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\C alibrations\Data
デバイス固有の検量線用データファイル	.tsv	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\C alibrations\Local
手動でエクスポートした内容の異なるファイル（デフォルトの保存場所）	多種多様	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\E xport\Data
LIMSシステムファイル（デフォルトの保存場所）	.xml .csv	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\E xport\LIMS
ライセンス申請ファイル（デフォルトの保存場所）	.xml	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\E xport\LicenseRequests
外部参照先	.brf	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\R eferences
測定レポート（デフォルトの保存場所）	.xls / .pdf	C:\ProgramData\BUCHI\NIRWise\R eports

説明	タイプ	フォルダ
システム試験レポート（デフォルトの保存場所）	.pdf	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Reports\SystemTests
測定レポートのテンプレート	.xls	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Templates
ライセンス	.xml	C: \ProgramData\BUCHI\LicenseManager\License
NIRWise Plusの履歴ファイル	多種多様	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Calibrations\Local\History
最新の検量結果レポート	.rtf	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Calibrations
NIRWise Plusプロジェクトファイル （すべての.tsvファイルと検量線用設定を含む）	.prj	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Calibrations

10.3 計算式入力ルール

変数の命名規則

- ASCII文字のみ
- 語間に下線を使用
- 名前の始めに数字を使用しない
- C#キーワードを使用しない
- 数学関数を使用しない

計算規則

		記号
演算子	加算	+
	減算	-
	乗算	*
	除算	/

		記号
数学関数	xの対数	Log(x)
	指定された底に対するxの対数	Log(x,base)
	底10のxの対数	Log10(x)
	Xの、指定された累乗	Pow(x,power)
	xの平方根	Sqrt(x)
	xのサイン	Sin(x)
	xのコサイン	Cos(x)
	倍精度浮動小数点数xの絶対値	Abs(x)
	倍精度浮動小数点値xを整数値に四捨五入	Round(x)
	倍精度浮動小数点値xを指定された小数点以下の桁数に四捨五入	Round(x,decimal)

10.4 スペアパーツとアクセサリ

装置の正常で安全な機能を保証するために、必ずビュッヒ純正の消耗品とスペアパーツを使用してください。

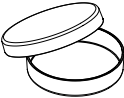
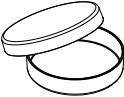
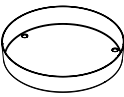
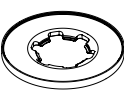
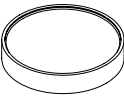
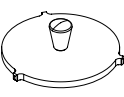
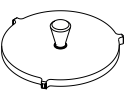
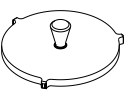
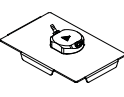
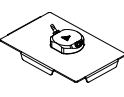


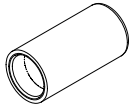
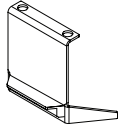
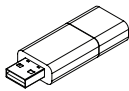
備考

スペアパーツまたはアセンブリーの変更は、事前にビュッヒから書面による承認を得た場合にのみ許可されます。

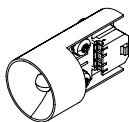
10.4.1 アクセサリ

	注文番号	イラスト
外部白色リファレンス	11067547	
上面照射用白色リファレンススペーサー	11067378	
下面照射用白色リファレンススペーサー	11067377	
白色リファレンス位置決めプレート	11067391	
PETラージサンプルトレー	11067692	
FDA食品認可ラージサンプルトレー	11068015	

	注文番号	イラスト
ガラス製ペトリ皿10個（下面照射） 透過反射カバーとの使用には適しません	11072073	
プラスチック製ペトリ皿240個（上面照射）	11066381	
ステンレス鋼製ペトリ皿 上面照射測定のみ	11074314	
大容量サンプルトレイ	11067691	
小型サンプルカップ用キャリア（上面照射）	11065472	
高性能サンプルカップ	11067399	
耐衝撃カップ	11055058	
透過反射カバー0.3 mm 耐衝撃カップとの併用には適しません	041636	
透過反射カバー2.0 mm 粗パーム油の測定用。耐衝撃カップとの併用には適しません。	11067919	
耐衝撃カップ用透過反射カバー	11055998	
フローセル、0.3 mm 流動状態下での液体サンプルの測定用	11084993	
フローセル、1 mm 流動状態下での液体サンプルの測定用	11084990	

	注文番号	イラスト
フローセル、2 mm 流動状態下での液体サンプルの測定用	11084992	
USB-WiFiスティック保護カバー	11066582	
遮光シールド（上面照射）	11067281	
装置テスト用標準キット（7個）	11067545	
NIRWise PLUSケモメトリクスソフトウェア式	11068025	
ネットワークケーブルセットRJ45 5m	11068780	

10.4.2 スペアパーツ

	注文番号	イラスト
スペアランプ	11065441	
高性能カップ用交換ガラス	046246	

 11593985 | K ja

全世界で100社以上の販売代理店とパートナー契約を結んでいます。
次のリストから最寄りの代理店を検索してください。

www.buchi.com

Quality in your hands